

海田東地区拠点施設整備基本構想

令和5年4月



海田町

目次

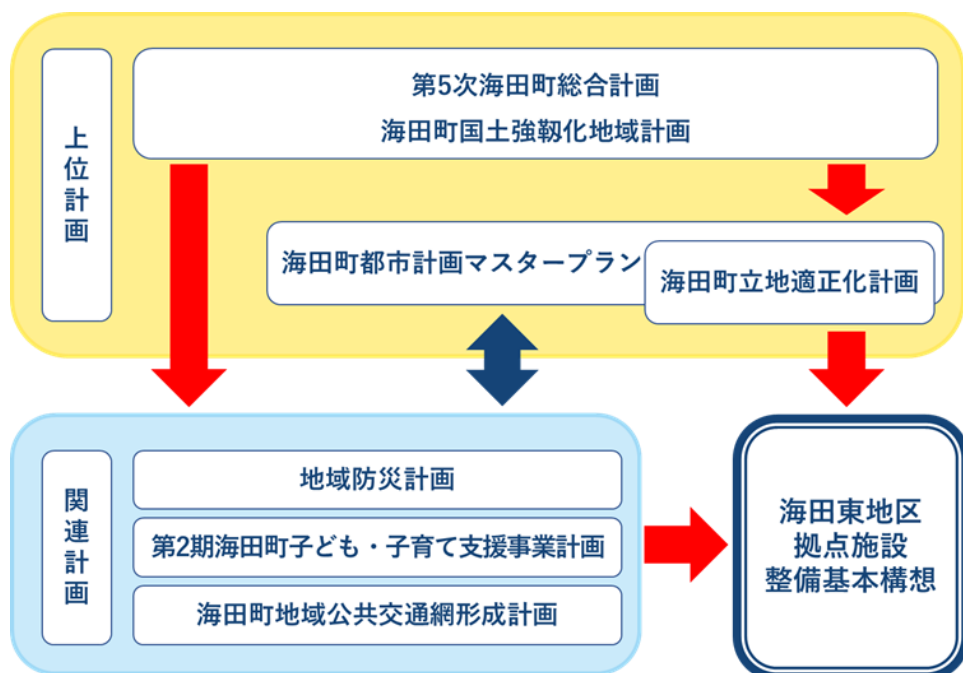
1	基本的な考え方	1
	（1）海田東地区拠点施設整備基本構想の位置付け	
	（2）関連計画の整理	
2	現状の把握	9
	（1）町東部地域の歴史的変遷	
	（2）災害リスクの把握	
	（3）地区拠点周辺の交通体系と都市機能の集積状況の把握	
	（4）公共施設の利用状況	
	（5）町民ニーズの把握	
	（6）現状の課題	
3	コンセプトと導入機能	32
	（1）拠点施設のコンセプト	
	（2）導入機能の方針	
	（3）拠点施設整備により期待される波及効果	
4	候補地の検討	37
	（1）候補地の抽出	
	（2）候補地の条件整理	
	（3）候補地の比較	
	（4）施設規模の想定	
5	事業計画	46
	（1）事業スケジュールの想定	
	（2）事業費用の想定と財源	
	（3）基本計画に向けて	

1 基本的な考え方

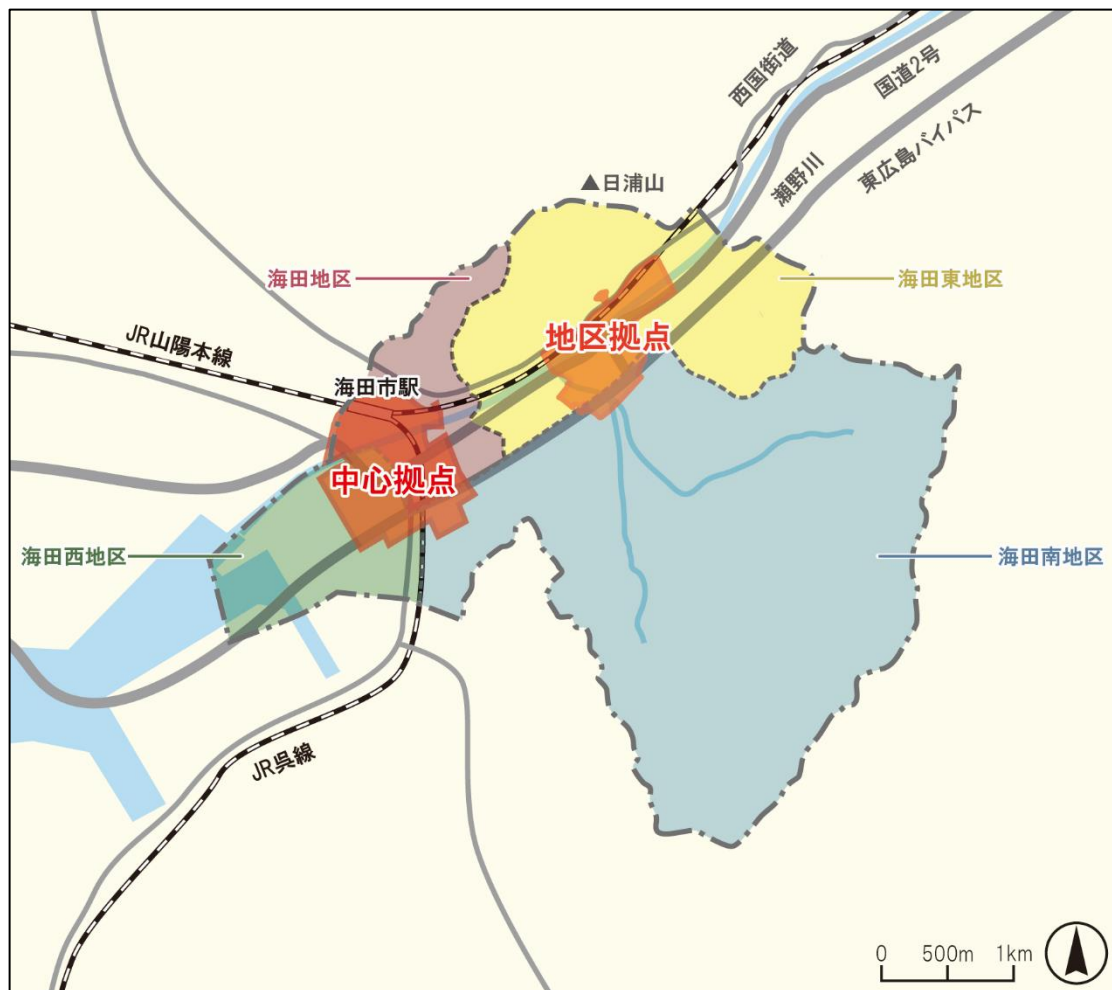
(1) 海田東地区拠点施設整備基本構想の位置付け

- ・海田町では、令和3年度に次の3つの計画を策定・改定しました。
- 海田町国土強靱化地域計画**・・・災害から町民の命と財産を守り、迅速に復旧・復興が可能となるよう「強さ」と「しなやかさ」をもった海田町を目指す計画です。
- 海田町都市計画マスタープランの改定**・・・今後の都市づくりの指針となる計画です。
- 海田町立地適正化計画**・・・少子・高齢化が見込まれる将来において、持続可能な都市経営を行い、コンパクトで利便性の高い都市の実現を目指していく計画です。
- ・この立地適正化計画において、海田東地区の曾田・寺迫・畝地区に一定の都市機能が充実し、徒歩や自転車等により容易に移動できる範囲として、都市機能誘導区域（拠点名：地区拠点。以下「地区拠点」という。）を設定しています。地区拠点には、過去に旧東海田町の町役場が位置し、現在も地区の拠点として、海田東公民館、海田東体育館、町民センター・海田東老人集会所、海田東小学校、寺迫交番などの多くの公共施設や商業施設が集積する地区となっています。そうした施設の中で、海田東公民館及び海田東体育館は老朽化が進む一方、バリアフリーが不十分であること、また、浸水想定区域内にありながら2階建てであることから、十分な避難所機能がないことなどが課題となっており、第5次海田町総合計画においても、再整備を検討するものと位置付けています。
- ・海田東地区拠点施設整備基本構想（以下「基本構想」という。）は、海田町のさらなる暮らしやすさを創出するため、地区拠点の老朽化している施設の再整備にともない、住民のニーズを踏まえ、新たな機能を導入することにより、防災力の向上や、住民福祉の向上、生涯学習の推進が図られる海田町の拠点となる施設（以下「拠点施設」という。）について、今後の整備の基本となる方向性を定めるものです。

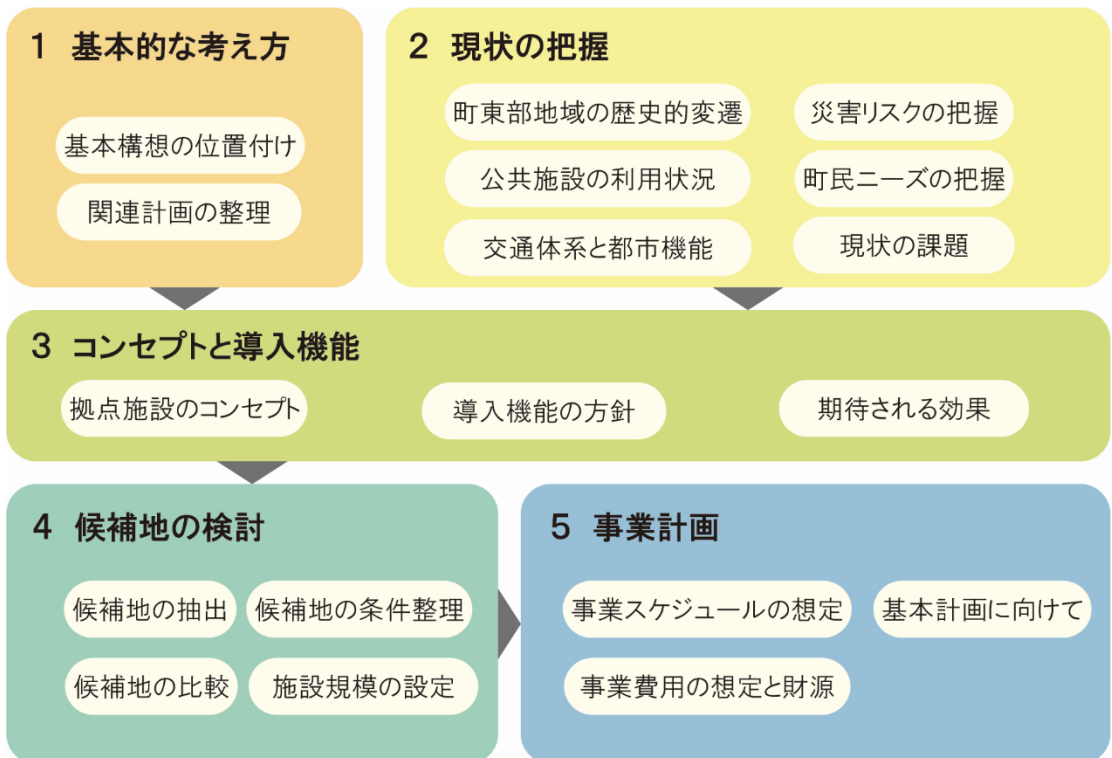
●海田東地区拠点施設整備基本構想の位置付け



●地区拠点の位置



●基本構想の構成



(2) 関連計画の整理

- ・拠点施設整備の前提となる主な関連計画の考えを整理します。

① 第5次海田町総合計画（令和3年3月）

- ・第5次海田町総合計画は、令和12（2030）年を目標年限として、海田町の目指す都市像と、その実現に向けた方向性を明確にするための計画です。7つの施策を掲げており、拠点施設は、子育て支援、防災、幅広い世代の学習の場、賑わいと交流の拠点機能など、多くの役割を担っていく必要があります。
- ・海田東公民館は、再整備を検討するものと位置付けています。

施策1 子どもの健やかな育ちを支えるまちづくり

1-(1)-② 子育てに関する支援の充実

- ・子育てについて気軽に相談でき、必要な情報を得られる場

1-(3)-② 地域で子育てを見守り育てる環境整備の促進

- ・地域全体で子育てを支える環境づくり、安全に活動できる子どもの居場所づくり

施策2 災害に強く安全なまちづくり

2-(2)-③ 避難体制の充実

- ・災害の種類に応じた避難場所の整備、避難所の機能強化

施策3 地域特性を生かした基盤整備によるまちづくり

3-(1)-① コンパクトで利便性の高い市街地の形成促進

- ・拠点機能の適正配置

3-(1)-② 地域特性に応じた土地利用の促進

- ・海田東地区は、町東部地域の拠点性の向上を図るとともに、豊かな自然環境や歴史文化を守り、継承する拠点としての機能の充実に促進
- ・海田南地区は、交通利便性の向上を図ることにより、快適な生活環境の形成を促進

3-(3)-① 移動しやすい公共交通体系の整備

- ・生活路線の利便性の向上を促進し、持続可能な公共交通ネットワークを構築

3-(3)-③ 快適な自転車利用環境の整備

- ・公共施設への駐輪場の設置を推進

3-(4)-① 潤いのある都市空間の形成促進

- ・公園の整備を推進するとともに、親水機能を有する環境を整備

施策4 健康で安心して暮らせるまちづくり

4-(3)-② 高齢者の社会参加と生きがいづくりの促進

- ・高齢者が地域の中で生きがいや役割を持って生活できるような居場所づくり
- ・世代間交流の促進

施策5 誰もが輝くまちづくり

5-(1)-① 学び続ける力の育成

- ・子どもの放課後の居場所づくりを推進
- ・地域における世代間交流活動を促進し、住民の子育て参加を促進
- ・読書活動を高める環境整備や体制の充実

5-(1)-② 生涯学習の環境整備

- ・幼児から高齢者まで、ライフステージに応じた学習活動の支援・充実
- ・住民が快適な環境で学習に取り組めるよう、施設の整備・管理を推進

施策6 環境にやさしいまちづくり

6-(1)-② 温室効果ガス排出量削減に向けた取組の促進

- ・施設等の緑化を促進

6-(2)-① 生活環境保全の推進

- ・水辺や緑など自然と触れ合う機会を通じての環境問題への意識啓発

施策7 にぎわいと交流のまちづくり

7-(1)-② 活動拠点を核とした地域活動の促進

- ・公民館等の活動拠点整備

7-(2)-① まちの魅力づくりと磨き上げ

- ・地域資源を活用し、幅広い世代が楽しめるイベント等を実施することによるまちの魅力の発信

○海田東地区、海田南地区の公共施設の取組

海田東小学校	・学校施設長寿命化計画に基づく管理・運用
海田東公民館	・必要な機能も含め、再整備を検討
海田町民センター	・公共施設等総合管理計画に基づく管理・運用
海田町福祉センター	・公共施設等総合管理計画に基づく管理・運用
東広島バイパス高架下	・公園や駐車場等の活用検討

② 海田町国土強靱化地域計画（令和3年12月）

- ・海田町国土強靱化地域計画は、今後発生すると考えられる自然災害に備え、災害から町民を守り、強靱な地域社会の構築に関する施策の推進を目的とし、指針を定める計画です。
- ・拠点施設は、自主防災組織につながるコミュニティ形成の場となり、避難所として活用するためにも耐震化や業務継続性の確保、非常時のエネルギーを確保する必要があると考えられます。

第5章 強靱化の推進方針

○自主防災組織の充実・強化

- ・平時における地域の交流機会の創出やコミュニティ形成につながる地域活動の取組を推進

○市街地での防災機能の確保

- ・敷地内オープンスペースの確保、公園の整備等による市街地の防災性強化

○建築物等の耐震化

- ・地域防災拠点建築物整備緊急促進事業の推進
- ・庁舎、公民館、学校等の防災上重要な公共建築物の不燃化、耐震化

○業務継続性の確保

- ・庁舎が被災した場合の代替庁舎の整備を検討

○非常用物資の備蓄の推進

○再生可能エネルギーの導入促進

- ・避難所等において必要なエネルギーを確保するため、再生可能エネルギー等の導入の検討

③ 海田町地域防災計画（令和4年7月）

- ・海田町地域防災計画は、地域に係る防災に関し、行政機関、町民の役割を明らかにし、災害の予防・応急対策・災害対応復旧について必要な対策の基本を示す計画です。
- ・地域防災の視点から、災害時の拠点となる施設や備蓄は各地域に分散して必要です。拠点施設は代替庁舎としての機能、備蓄場所を十分に確保する必要があります。

○拠点及び点的な要素

- ・庁舎被災時の代替施設の確保
- ・停電時に備えた非常用電源の確保
- ・避難所など公共施設の耐震性、耐浸水性の強化
- ・公園・緑地など防災空間の体系的整備

○備蓄に関する基本的事項

- ・庁舎、民間倉庫をはじめ、避難所となる学校・公民館等にも可能な限り備蓄する

④ 海田町都市計画マスタープラン（令和４年３月 改定）

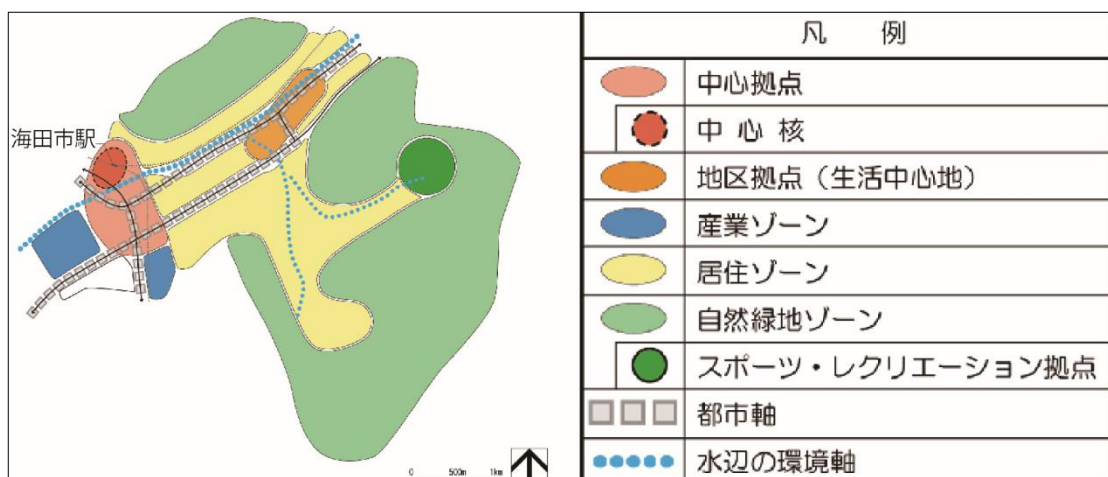
- ・海田町都市計画マスタープランは、都市の将来ビジョンの実現に向けて、都市計画に係る具体的な施策を推進するための基本的な方針を示すための計画です。
- ・町東部地域の資源や課題を踏まえ、生活利便性の向上、災害に強い地域づくり、拠点施設の整備にともなう機能集積や、交通拠点としての役割が期待されています。

○各地域の整備方針・取組事項

	海田東地域	海田南地域
資源等	・瀬野川 ・観音免のクスノキ ・日浦山 ・春日神社 など	・海田総合公園 ・河川環境 ・出崎森神社 ・洞所山 ・金ヶ燈籠山 など
整備方針・取組事項	1－① 新たな交通拠点の形成 ・バス路線網の再編等による新たな交通拠点の形成 1－② 商業・サービス施設等の立地誘導 ・新たな交通拠点のインパクトを生かした商業・サービス施設等の都市機能集積の誘導 2－② 生活交通の充実 ・町内循環コミュニティバスの充実など、公共交通機関の利便性の向上 3－① 瀬野川、日浦山等の自然景観の活用 ・河川の良い景観形成 4－① 災害に強い地域づくりの推進 ・土砂災害、洪水、津波などの自然災害に備えた防災体制の整備 ・避難地・避難路等の避難空間の確保 5－① 適正な土地利用の維持、誘導と良質な都市型住宅の供給の促進 ・東広島バイパス沿道における商業・サービス施設、都市型住宅等の立地誘導 5－② 既成市街地における居住環境の向上 ・高架下用地の活用	1－① 商業・サービス施設等の立地誘導 ・商業、サービス施設等の都市機能集積の誘導 2－② 生活交通の充実 ・公共交通機関の利便性の向上（地区拠点の形成と連動） ・町内循環コミュニティバスの充実など 3－② 地域資源を生かした魅力づくりの推進 ・河川の良い景観形成 4－① 災害に強い地域づくりの推進 ・土砂災害、洪水、津波、高潮などの自然災害に備えた防災体制の整備 ・避難地・避難路等の避難空間の確保 5－① 適正な土地利用の維持、誘導と良質な住宅の供給の促進 ・東広島バイパス沿道における商業・サービス施設、都市型住宅等の立地誘導 ・高架下用地の活用

○目指すべき都市の骨格構造

- ・海田市駅周辺は中心拠点として位置づけられ、地区拠点とのアクセス、各拠点へのアクセスを確保するため、公共交通の充実に図ります。



⑤ 海田町立地適正化計画（令和 4 年 3 月）

- ・海田町立地適正化計画は、令和 23（2041）年を目標として、生活に必要な諸機能が近接し効率的で持続可能な都市の実現に向けた取組を推進するための計画です。
- ・町東部地域の地区拠点を含めることで、地区拠点に誘導する必要がある施設や、災害リスクの高い地域について具体的な取組事項が記されており、拠点施設は誘導施設の要件を満たす必要があります。

第 3 章 まちづくり方針

3.1.2 誘導方針

方針 2：町東部地域の新たな拠点づくり

- ・旧東海田町の中心である海田東公民館周辺を都市機能誘導区域に定め、東部地域における地区拠点（生活中心地）の形成を図る。
- ・東部地域内から地区拠点への公共交通によるアクセス性向上のための交通拠点の形成を図る

方針 4：過度に自家用車に依存しないまちづくり

- ・公共交通によるアクセス性の維持・向上を図るとともに、徒歩や自転車で移動しやすい道路空間やネットワークを形成する
- ・誘導施設には、駅やバス停から歩いてアクセスできる立地に誘導する
- ・地区拠点に新たな交通拠点の形成を図るなど都市機能へのアクセス性を高める

第 5 章 都市機能誘導区域及び誘導施設

○地区拠点の位置づけ

- ・曾田・寺迫地区一都市機能が集積するとともに、古くから海田東地域の中心を担う
- ・畝地区一近年大型商業施設が整備される

○地区拠点に必要な誘導施設：子育て支援施設、教育施設、地区の交流の場となる施設 等

第 8 章 防災指針

8.4 災害リスクの高い地区の抽出・評価

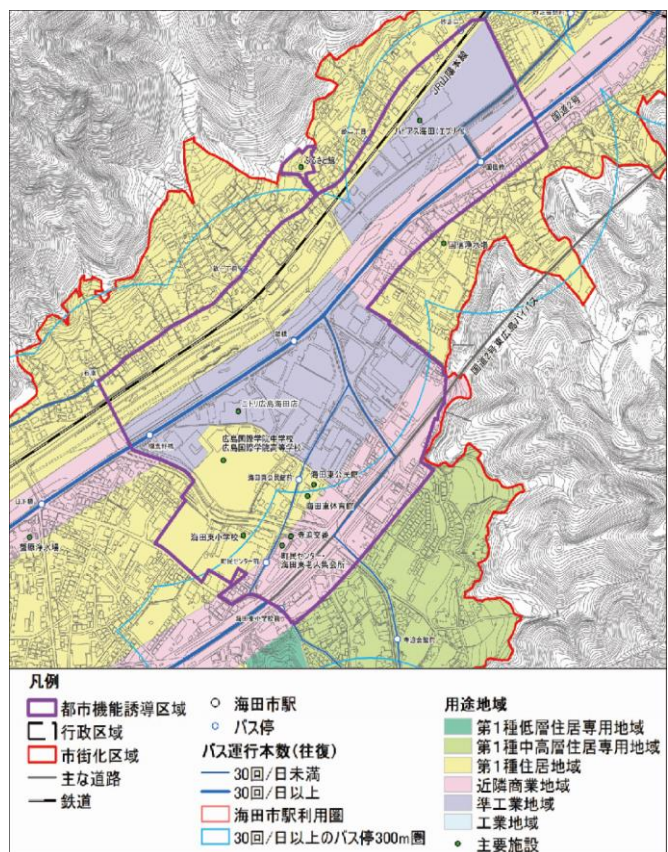
(2)曾田・国信・畝地区

町東部の拠点となる地区だが、洪水、雨水出水、高潮による浸水リスクがある

8.7 具体的な取組の検討

- ・海田東地区における避難時の拠点となる避難所の整備の検討
- ・耐震化、バリアフリー化等、避難所・避難場所の機能強化の推進
- ・災害時における各種情報の収集・伝達を迅速かつ的確に行うための防災伝達体制の整備
- ・災害時要配慮者利用施設における避難体制の確立促進

●地区拠点都市機能誘導区域



⑥ 第2期海田町子ども・子育て支援事業計画（令和2年3月）

- ・第2期海田町子ども・子育て支援事業計画は、令和2（2020）年から5年間の計画期間とした、安心して子育てができる環境づくりや、地域と連携しながら支えるまちづくりを推進するための計画です。
- ・拠点施設は、子育て家庭や子どもの成長を支える役割が期待されています。

第3章 本町の現状の分析と課題

【3】ヒアリング調査からみる課題

- ・子どもが過ごす環境の整備
- ・親同士が集まり、情報交換などができる場所

第5章 計画の展開

【基本目標4】心豊かな成長を支える学びの場づくり

- ・学校間や学校と町立図書館、公民館との連携を強化し、児童生徒の読書活動が推進できる環境づくり

【基本目標5】地域で子どもを見守るまちづくり

- ・地域全体で子育てを支える環境づくり
- ・安全に活動できる子どもの居場所づくり

⑦ 海田町地域公共交通網形成計画（令和2年3月）

- ・海田町地域公共交通網形成計画は、町民全員の生活移動を支えていくための地域公共交通網の在り方を示す計画です。
- ・拠点施設は、地域内路線の乗り継ぎ拠点としての役割が期待されています。

【交通拠点の配置方針】

- ・海田東公民館―地域内路線の乗り継ぎの場

基本方針2 将来のまちづくりを支える地域公共交通をつくる

- ・交通結節拠点等での乗り継ぎ機能の向上
- ・待合環境の改善

⑧ 海田町公共施設等総合管理計画（平成28年3月）

- ・海田町公共施設等総合管理計画は、公共施設等を総合的かつ計画的に管理することで、財政負担の軽減、施設の安全性の確保やサービスの向上を目的とした計画です。
- ・拠点施設は、利用ニーズに対応し、近隣施設と機能を分担しつつ、適正な規模である必要があります。

第5章 2 基本目標達成に向けた実施方針

2-3 維持管理・修繕・更新等

- ・安全性の向上やコスト縮減に配慮しつつ、新しい技術の導入を検討
- ・将来人口や社会情勢等を考慮し、適正な規模の検討

2-4 統合・廃止

- ・施設の新設や更新を行う場合は、近隣施設との機能の集約化や複合化を検討

2-7 運営

- ・利用者の高齢化に配慮し、施設のバリアフリー化を推進
- ・利用ニーズの多様化に柔軟に対応
- ・民間活力の導入を検討

⑨ 海田町学校施設長寿命化計画（令和 3 年 2 月）

- ・海田町学校施設長寿命化計画は、学校施設の効率的・効果的な維持管理を行うことで、児童生徒の安全・安心で質の高い教育環境の実現に資することを目的とした計画です。

第 3 章 3-4 学校施設の課題

①学校施設老朽化の進行への対応

- ・築後 40 年以上を経過した施設が約 6 割を占め、躯体の老朽化、屋上、外壁、給排水管などの劣化、施設内部の劣化などが進行しており、これらに対応した改修、改築等を通じて施設の維持、保全と有効活用を図る必要がある。

第 4 章 4-1 学校施設の目指すべき姿

①安全・安心で快適な学校施設

- ・児童生徒が安全・安心に学べ、防災拠点として誰もが快適に利用できる学校施設を目指す。

③地域に開かれた学校施設

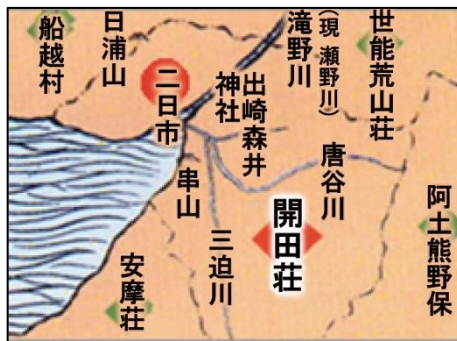
- ・地域住民等と連携した地域学習などを通じ、児童生徒が主体的、実践的に学ぶ一方で、地域における生涯学習の一翼を担うなど、地域に開かれた学校施設を目指す。

2 現状の把握

(1) 町東部地域の歴史の変遷

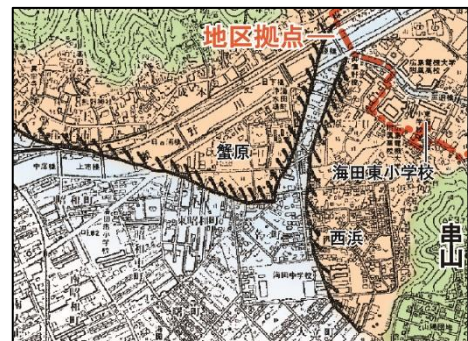
- ・町内には、縄文時代から人が住んでいた痕跡があり、1300年頃までの海岸線は串山のあたりで、地区拠点周辺は河口部に位置していたことが推測されます。江戸時代の開拓により現在に近い地形となり、ほとんどは水田として利用されていました。

●鎌倉時代の荘園とその周辺



(出典：海田町ホームページ)

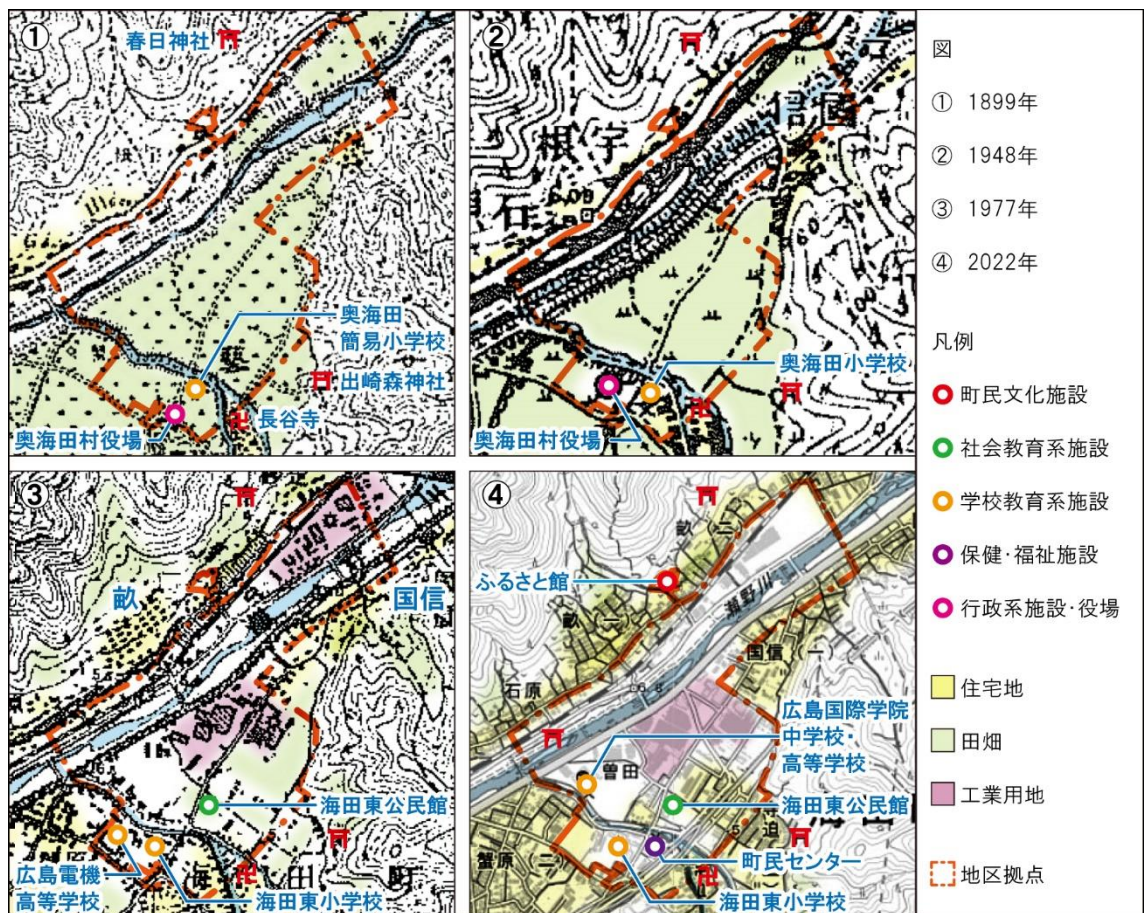
●中世末期～近世初期の海岸線



(海田町史を元に加筆)

- ・1873年、海田東小学校の前身である圭運舎が長谷寺に設立されました。その後、現在の町民センターや海田東小学校周辺に、役場や学校が建設されました。
- ・戦後、海田東公民館や広島国際学院の前身である広島電機高等学校が建設され、公共施設の集積が進みました。高度経済成長に伴い国信や畝に工場が進出し、平地は宅地化が進みました。近年は丘陵地にも居住者が増加し、更に宅地化が進んでいます。

●地区拠点の歴史の変遷



(①～③：海田町史，④国土地理院地図を元に加筆)

(2) 災害リスクの把握

① 災害の歴史

- ・ 町は山に囲まれており、海田東地区、南地区は二級河川である瀬野川だけでなく三迫川や唐谷川といった急流があり、以前から多くの水害に見舞われてきました。
- ・ 海田町史によると、町東部地域での代表的な水害として、明治 40（1907）年の大水害は奥海田村での被害が大きく、山崩れと瀬野川の決壊により村ごと無くなった地域や、田畑の被害も約 570 万㎡（5.7 km²）に及びました。
- ・ 大正 15（1926）年 7 月及び、9 月の水害では、瀬野川が増水し橋が流される被害があり、瀬野川沿岸の開拓地で約 100 万㎡（1.0 km²）の田畑が泥海化しました。
- ・ 昭和 20（1945）年 9 月の枕崎台風では、地区拠点周辺の詳細な記録はありませんが、現在の海田地区、海田西地区に当たる地域で、橋の流出の被害の他、満潮が重なったため船場の堤防が決壊し、浸水被害がありました。
- ・ 平成 30（2018）年 7 月豪雨では、7 月 6 日から 7 日にかけて 300 mm を超える雨量を観測しました。町内各所で土砂災害や浸水が発生し、大きな被害がありました。

●地区拠点の災害の歴史

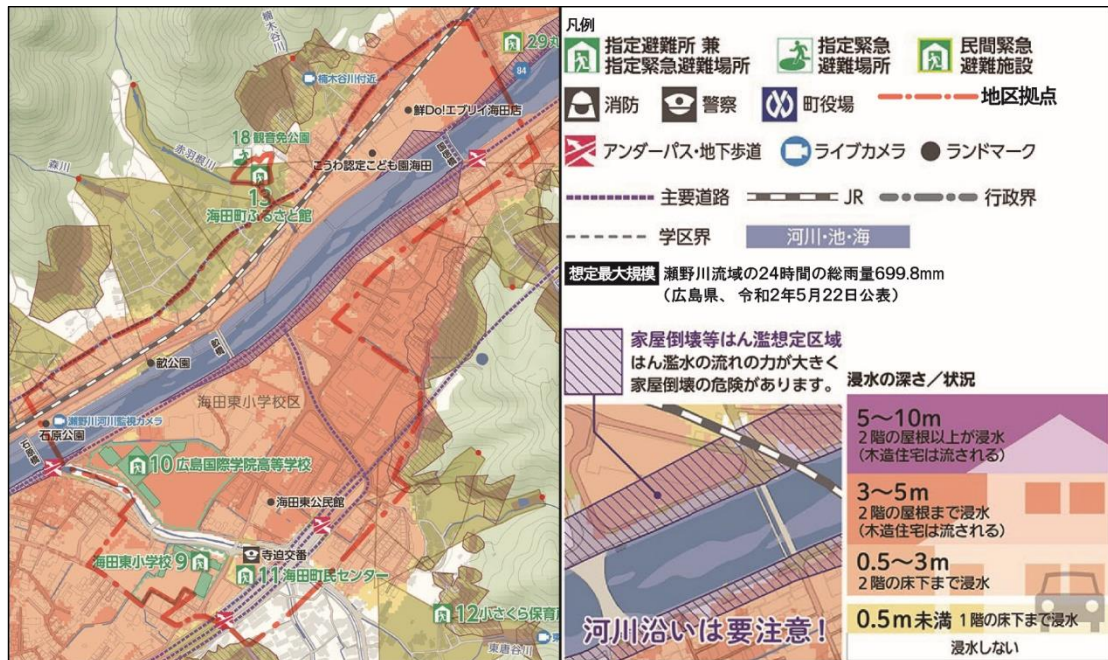


(写真の出典：海田町土砂災害ハザードマップ海田東小学校区・海田南小学校区)

② ハザードマップによる災害リスクの把握

ア 瀬野川洪水（令和3年3月作成/想定最大規模）

- ・ 地区拠点はおおむね、0.5m以上の浸水深となっており、特に曾田・国信地区で一部3.0～5.0mの浸水深となっています。また、河川沿いには家屋倒壊等氾濫想定区域に含まれる部分があります。
- ・ 浸水継続時間はほぼ全域が12～24時間となっています。



(瀬野川洪水ハザードマップ を元に一部加筆)

イ 浸水（内水）（令和3年3月作成/想定最大規模）

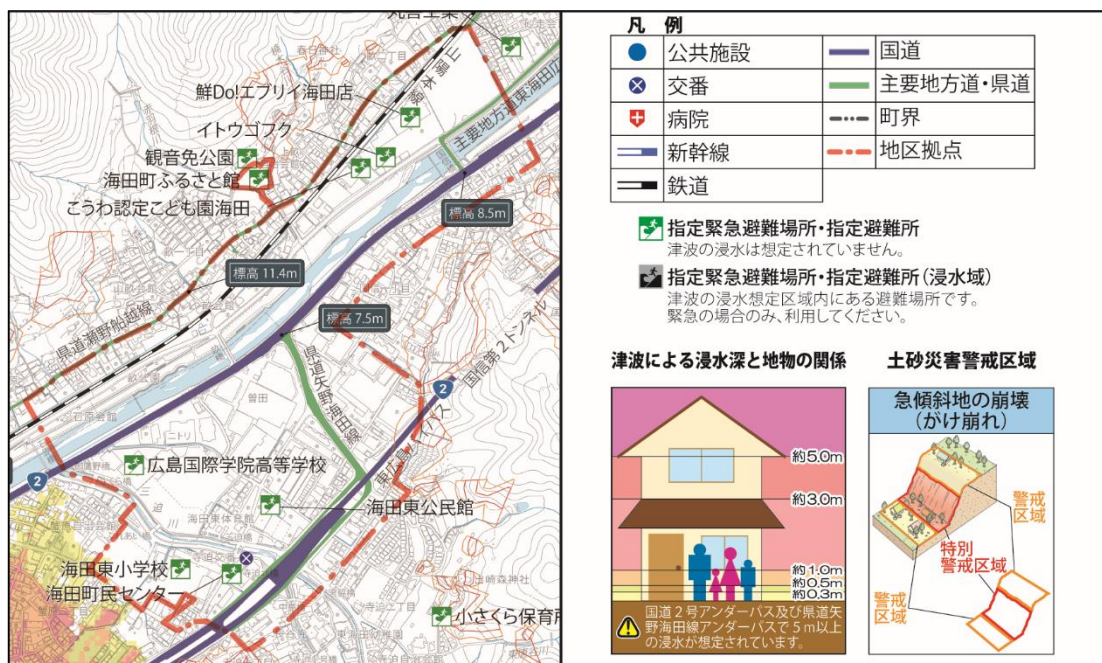
- ・ 地区拠点はおおむね、0.3m以上の浸水深となっており、特に曾田、国信地区は1.0～3.0mの浸水深となっています。三迫川以南に一部浸水リスクの無い地域があります。



(浸水（内水）ハザードマップ を元に一部加筆)

ウ 津波（令和3年3月作成/最大クラスの津波）

- ・地区拠点はおおむね、ハザードエリア外ですが、南西部で一部、0.3mの浸水深が予測されています。



（津波ハザードマップ を元に一部加筆）

エ 高潮（令和4年5月作成/伊勢湾台風規模）

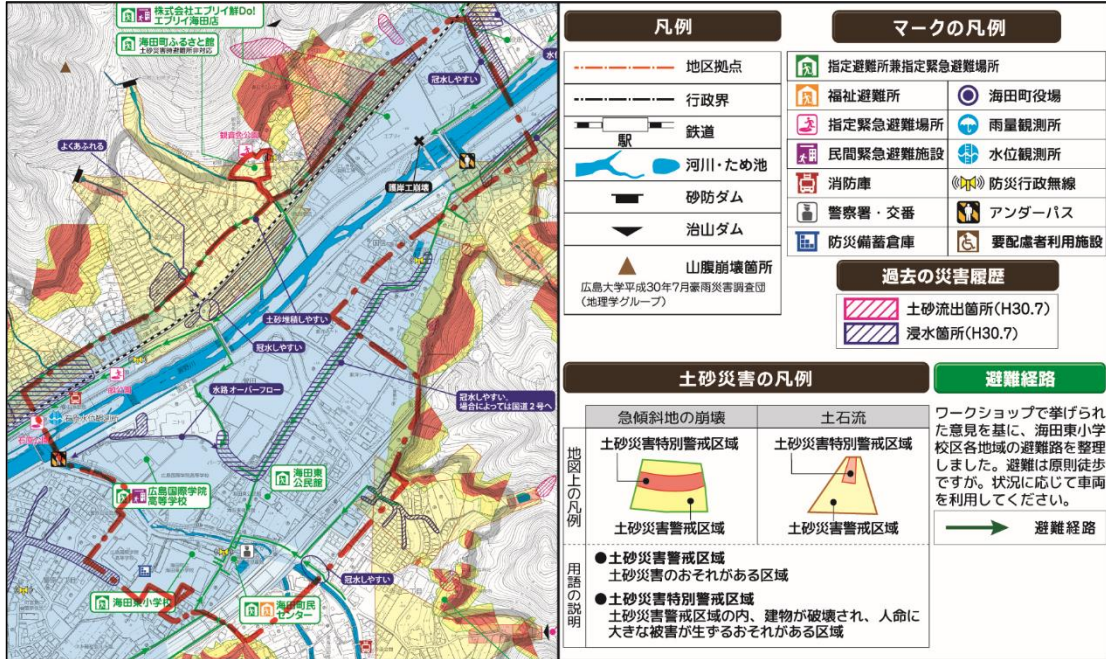
- ・地区拠点はおおむね、1.0m以上の浸水深となっており、特に曾田・国信地区で一部3.0～5.0mの浸水深が予測されています。



（高潮ハザードマップ を元に一部加筆）

オ 土砂災害（海田東小学校区・平成 29 年度区域指定，平成 30 年度作成）

- ・地区拠点はおおむね，ハザードエリア外ですが，瀬野川以北と東側の一部に土砂災害警戒区域が含まれています。

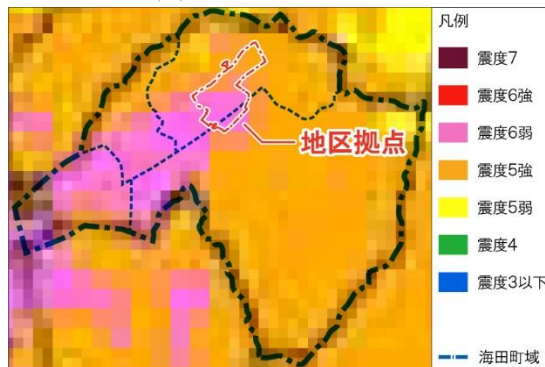


（海田東小学校区土砂災害ハザードマップ を元に一部加筆）

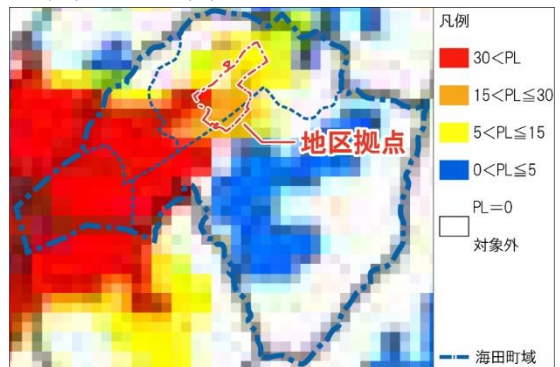
カ 震度分布図・液状化危険度分布図（平成 25 年 10 月広島県公表）

- ・地区拠点周辺は，南海トラフ巨大地震（陸側ケース）での想定において，最大震度 5 強から 6 弱の震度分布であり，液状化危険度を示す PL 値は 5~30 で，液状化の可能性があると予想されます。

●震度分布図



●液状化分布図



（表）PL 値ランク別液状化面積率

PL 値	液状化危険度
PL > 15.0	液状化発生の可能性が高い
5.0 < PL ≤ 15.0	液状化発生の可能性がある
0.0 < PL ≤ 5.0	液状化発生の可能性が低い
PL = 0.0	液状化発生の可能性はない
—	対象外

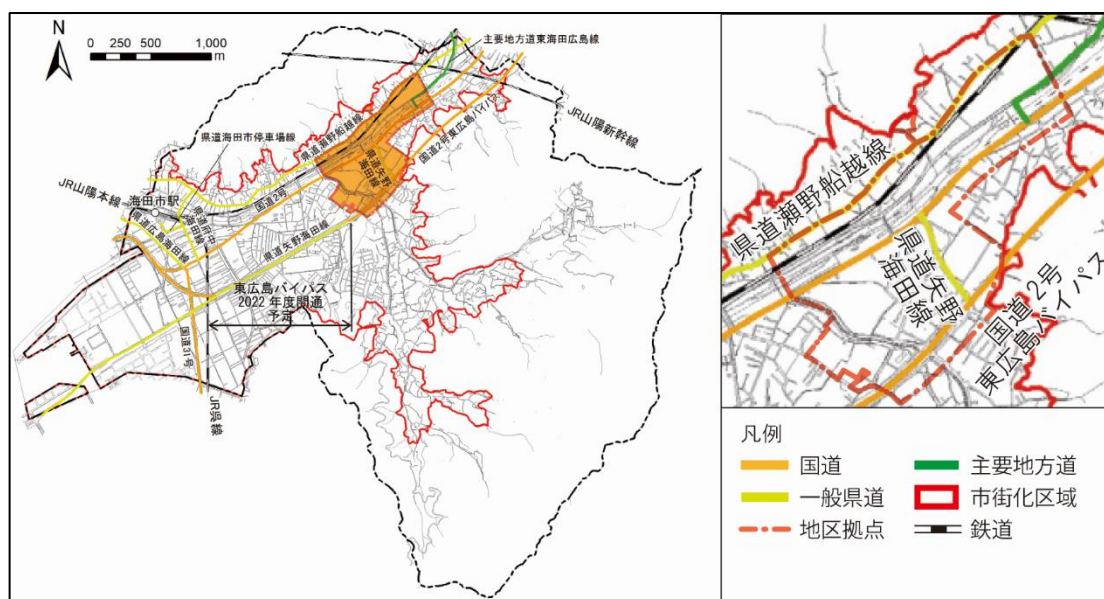
(3) 地区拠点周辺の交通体系と都市機能の集積状況の把握

- ・地区拠点周辺の交通体系の現況と都市機能の集積状況について整理します。

① 道路ネットワーク

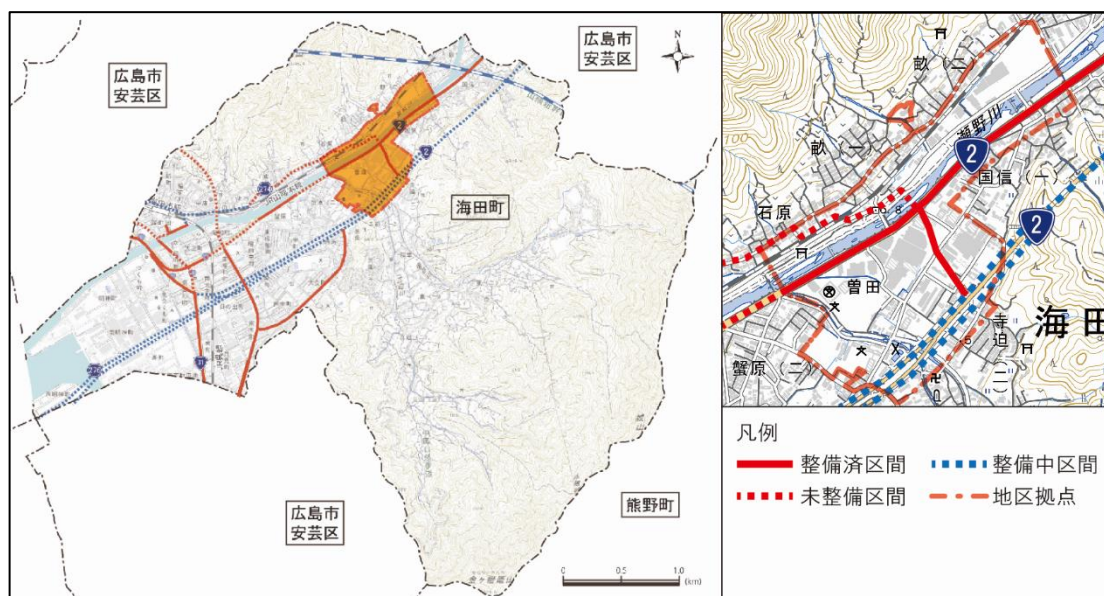
- ・現状、地区拠点周辺の幹線道路としては、国道2号とそのバイパスである東広島バイパス、県道矢野海田線が通過しており、整備が進められています。
- ・令和4（2022）年度に東広島バイパスが開通するほか、都市計画道路である畝曾田線の、新畝橋が計画されており、将来的にも利便性の向上が見込まれます。
- ・町内の広範囲において、様々な災害による浸水リスクが想定されており、災害時に町内の他の地域や町外とのアクセスを確保する必要があります。

●幹線道路網図



（海田町都市計画マスタープラン を元に一部加筆）

●都市計画道路の整備状況



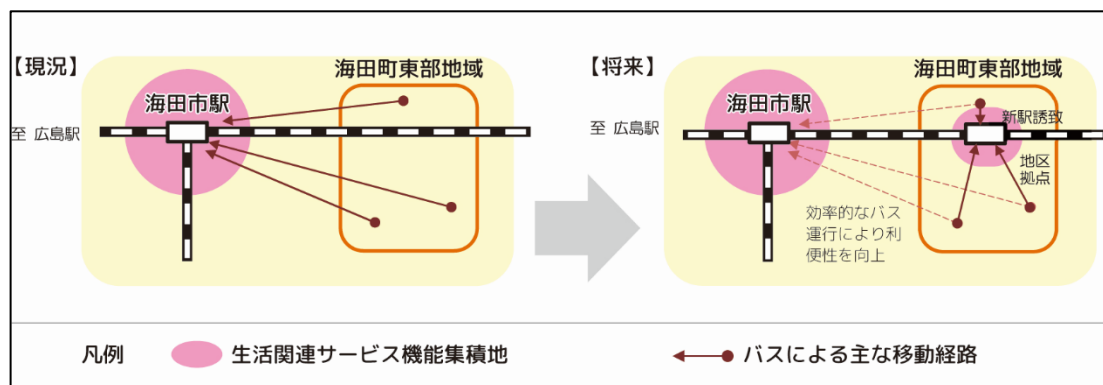
（海田町都市計画マスタープラン を元に一部加筆）

② 公共交通ネットワーク

【鉄道】

- ・町内には JR 山陽本線が東西に走っていますが、地区拠点に駅はありません。現在、町東部地域の新たな交通拠点の形成と更なる機能集積に向け、新駅の誘致が検討されており、将来的に、交通利便性の向上が期待されます。

●新たな交通拠点イメージ

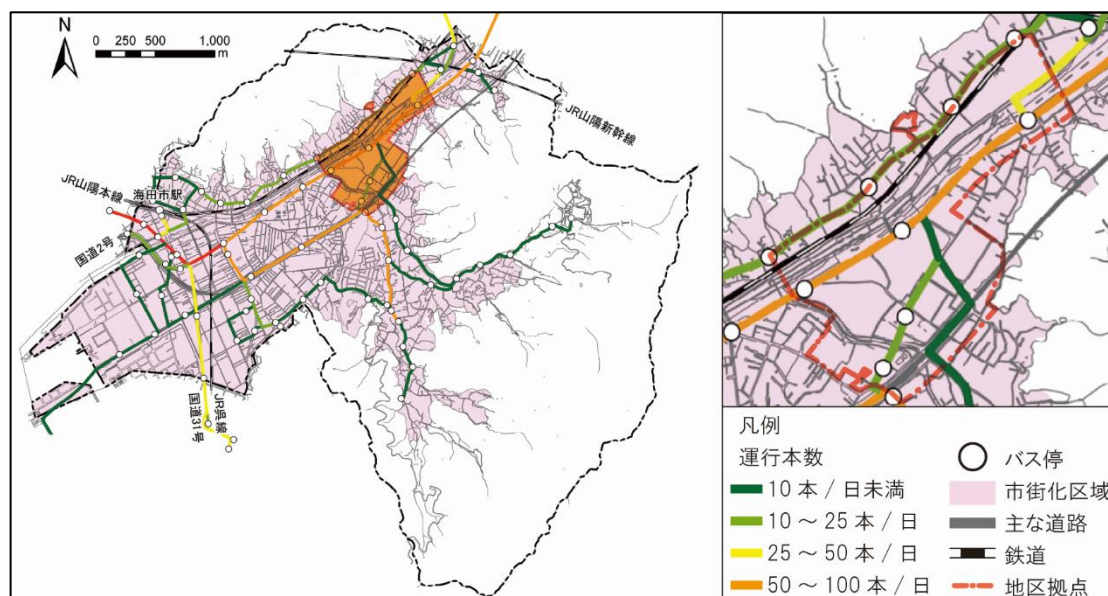


(海田町都市計画マスタープラン を元に一部加筆)

【バス】

- ・バス路線は、芸陽バス、町内循環コミュニティバスが運行しています。現在海田東公民館、町民センターは町内循環コミュニティバス、海田東小学校付近には芸陽バスの停留所があります。いずれも一日の運行本数は 10~25 本です。また、海田南地区の丘陵地域は町内循環コミュニティバスのみ運行しており、一日の運行本数は 10 本未満です。

●バス運行本数図



(海田町都市計画マスタープラン を元に一部加筆)

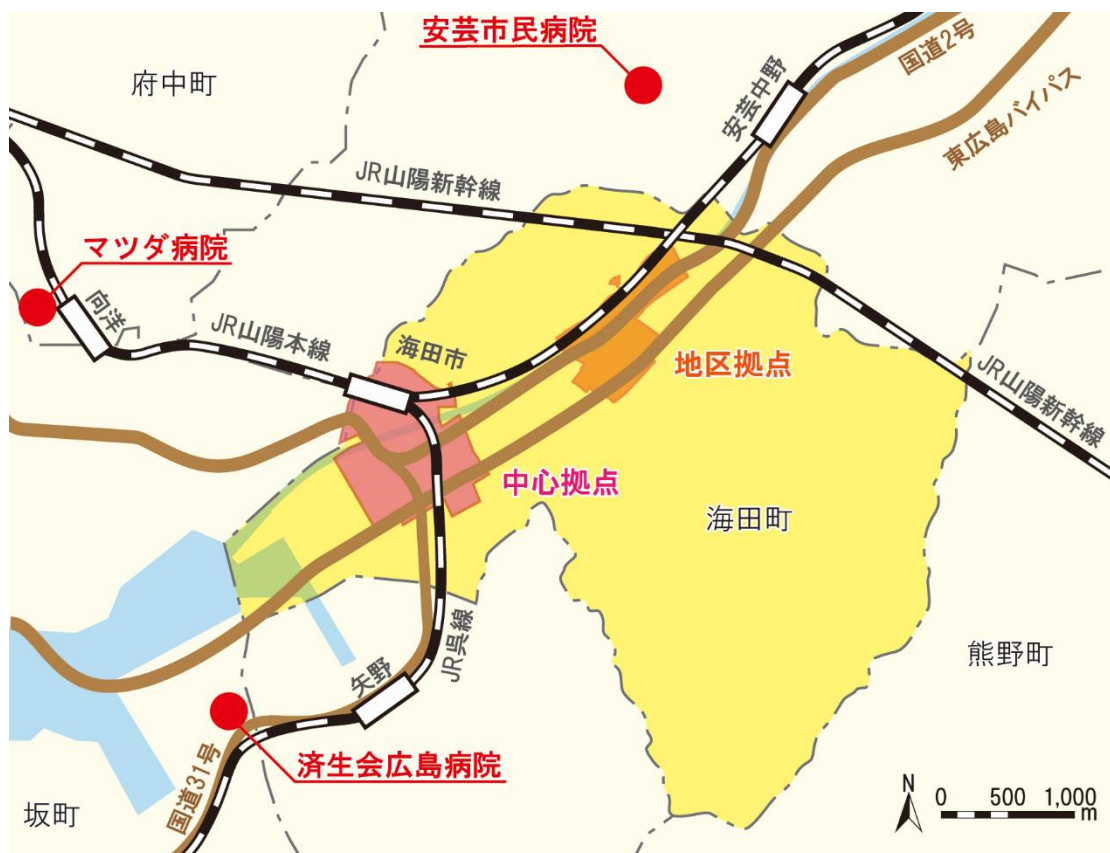
③ 都市機能の集積状況

ア 商工業施設

- ・ 地区拠点周辺では、国道 2 号を中心に大型の商業施設や工場が分散して立地しています。
- ・ 海田東公民館や町民センターの周辺では、コンビニエンスストアや飲食店などの店舗が乏しく、今後更なる商業機能の集積による生活利便性の向上が期待されます。

イ 医療施設・福祉施設

- ・ 町東部地域では今後、高齢者人口が増加する見込みです。将来的に近隣市町の拠点的医療施設との連携や、地区拠点を中心とした医療施設や福祉施設の誘致により、多世代の暮らしの安心の向上が期待されます。



地区拠点周辺の医療ネットワークのイメージ

- ・ 地区拠点は、中野・畑賀方面から矢野・坂方面への中継地点となることが期待されます。東広島バイパス、国道 2 号、新畝橋、都市計画道路新開蟹原線等を活用し、ネットワークが地区拠点を核に町東部地域や町全域、広域的にもネットワークをつなげ、今後の町民ニーズの変化への対応性を高めます。

(4) 公共施設の利用状況

- ・地区拠点には、地域活動の場として海田東公民館、町民センター、海田東小学校、ふるさと館などの公共施設が活用されています。
- ・その役割を大きく担っている海田東公民館と町民センターについて建物概要と利用状況について整理します。

① 海田東公民館・体育館

ア 建物概要

海田東公民館

- 竣工年月 昭和 50 年（1975 年）8 月
(平成 27 年 3 月 耐震改修)
- 構造規模 鉄筋コンクリート造 地上 2 階建て
- 敷地面積 2,761 m²
- 建築面積 641 m²
- 延べ面積 1,241 m²
- 駐車施設 駐車場約 40 台/駐輪場約 20 台
- 施設内容

階数	室名	面積
1 階	ロビー	124 m ²
	図書室	93 m ²
	実習室	99 m ²
	和室	76 m ²
	事務室	40 m ²
2 階	講座室 1	40 m ²
	講座室 2	39 m ²
	会議室	40 m ²
	講座室 4	55 m ²
	大会議室	124 m ²
	視聴覚室	62 m ²
	託児室	43 m ²
別棟	陶芸室	19 m ²

- 避難所指定（海田東体育館含む）

- ・一次避難所：
緊急、土砂、地震、津波、
高潮（2 階）、洪水（2 階）

体育館

- 竣工年月 昭和 56 年（1981 年）3 月
(平成 27 年 3 月 耐震改修)
- 構造規模 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
- 建築面積 684 m²
- 延べ面積 612 m²

体育室	492 m ²
ステージ	32 m ²



海田東公民館 外観



[1階] ロビー



体育館 外観



体育館 内観

イ 利用団体等の利用状況

●貸館事業

- ・体育館の他、公民館では、大会議室、和室、講座室、実習室等 8 部屋の貸出を行っており、コロナ禍以前は年間約 3,000～3,500 件、約 50,000 人の方が利用しています。特に、体育館や大会議室は、スポーツの団体で利用される方が多く、稼働率が高い傾向にあります。
- ・海田東公民館において年間を通じて活動を行う自主講座は、令和 3（2021）年度から海田町文化スポーツ協会に所属することとなりました。令和 4（2022）年度時点では 57 講座が活動しています。

●主催事業

- ・海田東公民館では、地域住民の方の学習要求と地域社会の必要課題を的確に把握し、積極的な学習意欲を触発することを目的に主催事業を実施しています。高齢者教育や青少年教育、織田幹雄スクエアと連携した主催講座を開設しています。
- ・海田東公民館・体育館の過去 5 年間の利用状況は次のとおりです。

○過去 5 年間の利用件数、利用者数

	2017	2018	2019	2020	2021
件数（件）	3,327	3,520	3,288	2,363	2,097
利用者（人）	52,903	50,584	48,515	29,846	33,837

※2020 年度、21 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、部分開館、臨時休館を実施した月があります。

●図書室

- ・図書室については資料数 4,884 冊、年間貸出数 2,117 冊となっています。読書のほか、自習で利用される方や、待ち合わせで利用される方がいます。また、絵本が充実しており、靴を脱いで過ごすことができる畳のスペースが設置されています。

●その他

- ・定期的に利用される方のほか、証明書発行や、健診等で来館される方がいます。

② 町民センター

ア 建物概要

町民センター

- 竣工年月 平成4年（1992年）
- 構造規模 鉄筋コンクリート造
地上3階建て
- 敷地面積 1,028 m²
- 建築面積 516 m²
- 延べ面積 1,484 m²
- 駐車施設 駐車場約20台/駐輪場約6台
- 施設内容

○避難所指定

- ・一次避難所：
緊急、土砂、地震、津波、高潮（2階以上）、
洪水（2階以上）
- ・福祉避難所：
緊急、土砂、地震、津波、高潮（2階以上）、

階数	室名	面積
1 階	つどいの広場	130 m ²
	遊戯室	106 m ²
2 階	映写室（図書室）	38 m ²
	プレイルーム	44 m ²
	学習室	40 m ²
	和室（静養室）	25 m ²
	遊戯室	105 m ²
	児童クラブ	48 m ²
3 階	ホール・ステージ	243 m ²
	和室（老人集会所）	48 m ²



町民センター 外観



〔1階〕 つどいの広場



〔3階〕 ホール



〔3階〕 和室（老人集会所）



隣接する海田東小学校プール

イ 利用団体等の利用状況

●子育て支援

- ・ 町民センターは子育て支援センター機能を有しています。
- ・ つどいの広場やホールで子どもを遊ばせる方、赤ちゃん教室・親子教室に参加される子育て世代の方の利用が多い傾向にあります。

●海田東児童館・児童クラブ

- ・ 町民センター2階は海田東児童館となっており、海田東小学校児童を中心として、多くの小学生が利用しています。
- ・ 児童クラブ室、1階・2階遊戯室は児童クラブが使用しています。

●海田東老人集会所

- ・ 和室（老人集会所）は、町が実施する高齢者の方を対象とした講座や、赤ちゃん教室で利用されています。

●貸館事業

- ・ 貸館事業としてはホールと老人集会所、海田東児童館映写室（図書室）の3室の貸出を行っています。
- ・ 子育て支援サークル、音楽やスポーツの団体が定期的に活動しているほか、自治会や子ども会が利用しています。
- ・ ホールは、貸館利用のない午前は未就園児の屋内体育室として、夕方は放課後児童クラブの小学生に開放され、貸館利用では音楽やスポーツの団体が利用される等、稼働率が高い傾向にあります。
- ・ 貸館の過去4年間の利用状況については次のとおりです。

○過去4年間の利用件数、利用者数

	2018	2019	2020	2021
件数（件）	289	323	274	304
利用者数（人）	（データなし）	8,030	4,312	6,017

※2020年度、21年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、部分開館、臨時休館を実施した月があります。

(5) 町民ニーズの把握

- ・拠点施設に求める町民のニーズを把握するため、意向調査を行いました。概要については次のとおりです。

年代	地域	意向調査の方法
18 歳以上	全町	①町民アンケート
	町内・町外	②来館者アンケート
		③利用団体アンケート
中高生	中学校：町内	④中高生アンケート
	高校：町内・町外	⑤中高生ワークショップ
子育て世代	町内・町外	⑥子育てグループヒアリング

① 町民アンケート

- ・拠点施設に求める役割を把握することを目的として、町民アンケートを実施しました。調査に当たっては、広く町民の意見を集めるため、町東部地域に限らず全町を対象として実施しました。

●**調査方法**：住民基本台帳から無作為に抽出した 18 歳以上の男女 1,000 名に郵送でアンケート調査票を配布し、回収

●**実施期間**：令和 4 年 7 月 4 日～17 日 14 日間

●**回収数**：379 票（回収率 37.9%）

●**結果の概要**：

- ・回答者は女性が 7%ほど多く、年代の偏りは、10 代が 1%と少ない結果となりました。海田西地区からの回答数が少なく、他 3 地区は同程度の回答数でした。居住年数は「21 年以上」お住まいの方が 55%と、大半を占めますが、「6~10 年」、「1~5 年」と回答した方もそれぞれ 14%、17%となりました。
- ・各項目の概要は次のとおりです。

項目	概要
海田東公民館利用有無	・「いいえ」がやや多い ・地区別に集計すると、海田東、海田南地区で 50%以上の方が「はい」と回答
海田東公民館の利用頻度	・「数年に 1 回」から「1 年に 1 回程度が」70%と大半を占める
海田東公民館までの主な交通手段	・「自家用車」が 42%と突出して多い ・「徒歩」と「自転車」は 25%前後と、同程度
海田東公民館で利用されたスペースと用途	・海田東公民館を利用された方の回答票 170 票のうち利用されたスペースは、「ロビー」が最も多く 83 票（48%）、次いで「体育館」が 69 票（40%）
現在の海田東公民館の印象について	・10 項目中「そう感じる」の割合が最も多かった項目は「気軽に訪れやすい」で 55%。一方、「そう思わない」の割合が最も多かった項目は「交通アクセスが良い」で 29%
新しい拠点施設で重要と考えられる役割	・「防災力の向上や避難所機能」が 246 票、「バス・自動車・自転車などの交通利便性の向上」が 130 票と突出して多い

② 来館者アンケート

- ・ 町内公共施設利用者の視点から、拠点施設に求める役割を把握することを目的として実施しました。

●**調査方法**：海田町内の公共施設 6 施設（海田東公民館，町民センター，ひまわりプラザ，ふるさと館，海田町役場，織田幹雄スクエア）にアンケートを設置，回収

●**実施期間**：令和 4 年 7 月 12 日～24 日 13 日間

●結果の概要：

- ・ 公共施設ごとに利用される方の年代に偏りがあり，海田東公民館とふるさと館は 50～70 代，町民センターとひまわりプラザは 20～40 代の子育て世代の回答数が多い結果となりました。
- ・ 自由意見の欄では，交通利便性の向上を求める声が多く寄せられました。
- ・ 各項目の概要は次のとおりです。

公共施設/回収数	概要
海田東公民館/47 票	・ 性別では女性が 85%，年代では 60 代以上が 88%，地区別では，海田東，海田南地区合計で 61%を占める ・ 交通手段は自家用車 36%，自転車 34%が突出して多い ・ 拠点施設に求める機能としては，生涯学習機能 25 票，健康増進機能 23 票が多い
町民センター/33 票	・ 性別では女性が 91%，年代では 20 代，30 代が合計 75%，地区別では，海田東で 73%を占める ・ 交通手段は自家用車が 55%，徒歩が 42% ・ 子どもを遊ばせる場所として満足度が高く，拠点施設に求める機能は，地域子育て支援の充実が 15 票と最多
ひまわりプラザ/98 票	・ 利用者の 86%が女性で，20 代～40 代が 74%を占める ・ 地区別では海田南地区 33%，海田地区 23% ・ 交通手段は 60%が自家用車を利用し突出して多い ・ 拠点施設に求める機能として，防災機能，地域子育て支援を挙げた人は 50%を超える
ふるさと館/15 票	・ 60 代以上の高齢者の利用が中心 ・ 拠点施設に求める機能は，防災機能，地域交流機能，交通利便性の向上の 3 項目を挙げた人は過半数を超える
海田町役場/2 票 織田幹雄スクエア/2 票	・ 回答票が少ないため傾向の把握はできないが，自由意見には屋内運動場の整備やカフェといった声が寄せられた

③ 利用団体アンケート

- ・現在の海田東公民館に対する満足度を、利用団体の視点から把握することを目的として実施しました。

●**調査方法**：海田東公民館で活動される講座団体や一般団体、スポーツ少年団の代表者に記入を依頼

●**実施期間**：令和4年7月12日～24日 13日間

●**回収数**：49団体

●**結果の概要**：

- ・利用団体を構成する年齢層をみると、70代は49団体中40団体に、60代は21団体に参加しているという結果が得られ、他の年代と比較して突出して多い結果となりました。高校生～30代の参加は0～1団体で推移しており、低い結果となりました。
- ・良い点として、雰囲気の良いことや適切な規模に対する意見が多く集まりました。一方、問題点としては、設備の老朽化やバリアフリーに対する意見が多く集まりました。
- ・各項目の概要は次のとおりです。

海田東公民館の良いところ	
アクセス性	・距離の近さ（5件）
訪れやすさ	・雰囲気の良さ（14件） ・職員対応の良さ（11件）
広さ	・駐車場の広さ（9件） ・体育館が広い（3件） ・講座室など活動する部屋の広さ（2件）

海田東公民館の課題	
設備	・エアコンの設置（5件） ・エレベーターの設置（7件） ・トイレを洋式化、きれいにする、広くする（8件） ・講座室に水道の設置、給湯設備の設置（2件）
施設管理	・建具等の修繕（4件） ・備品の刷新、追加購入（5件） ・収納スペースの増設（3件）
アクセス性	・交通の便の悪さ（1件）

④ 中高生アンケート

・中学生・高校生の視点から拠点施設に求める役割を把握することを目的として実施しました。

●調査方法：東地区拠点内の海田中学校と広島国際学院中学・高等学校の2年生対象

●実施期間：令和4年7月7日～15日 14日間

●回収数：海田中学校 147票 広島国際学院中学校・高等学校 417票

●結果の概要：

- ・中学生、高校生は学習する場所やスポーツをする場所の充実を求めています。また、防災に対する意識も高く、防災機能を求める声も多く集まりました。
- ・各項目の概要は次のとおりです。

海田中学校	
概要	・海田東地区、南地区の生徒が大半で、公民館（海田東公民館に限らず）の利用経験のある生徒は40%であり、利用経験なしが少し多い結果となった
利用した場所	・公民館利用経験のある生徒の中で、図書室を利用した生徒が60%と最多。用途としては読書63%、自習14%、友人と雑談8%など
拠点施設に求めること	・拠点施設に求める機能は、「1.防災力を高める機能や避難所としての役割」が最も多く82票、次いで「3.健康の増進やスポーツの増進」56票、「6.読書や勉強のできるスペースの提供」56票

広島国際学院中学校・高等学校	
概要	・海田町内在住の生徒は16%で、大半が町外からの生徒である。このため、通学手段は自転車が最も多く54%、次いで電車28%、徒歩12%となった ・公民館を利用しない生徒が73%と、大半を占める
利用した場所	・公民館を利用した生徒のうち56%は図書室や自習スペースを利用しており、主な利用目的は自習である
拠点施設に求めること	・拠点施設に求める機能として、「読書や勉強のできるスペースの提供」191票、「防災力を高める機能や避難所としての役割」175票が突出して多く、次いで「健康の増進やスポーツの推進の役割」133票、「交通の利便性を向上させる役割」127票となった

⑤ 中高生ワークショップ

- ・アンケートの結果を踏まえ、将来の利用者となる中学生・高校生の視点から、自由な意見交換を通じ、更に詳しく、より自由なアイデアを引き出すことを目的として実施しました。

●**実施方法**：事前に実施した中高生アンケートを基にワークショップ参加者を募り，中高生混合の3班構成で実施

●**実施日**：令和4年8月10日

●**参加者**：海田中学校生徒4人

広島国際学院中学校生徒1人 広島国際学院高校生徒8人

計13人

●**結果の概要**：

- ・各項目の概要は次のとおりです。

ア 現状の公共施設利用状況

■町内

施設	利用の仕方
海田東公民館/ 体育館	・ 静かな図書室で読書や自習をしやすい ・ 講座団体活動や習いごとで体育館を利用し，広くて使い勝手が良い
織田幹雄 スクエア	・ サークル活動でホールを利用し，涼しいホールで練習できるのは良い
町民センター	・ 小学生の時に児童クラブで利用し，様々な遊びができる場所が良い

■町外

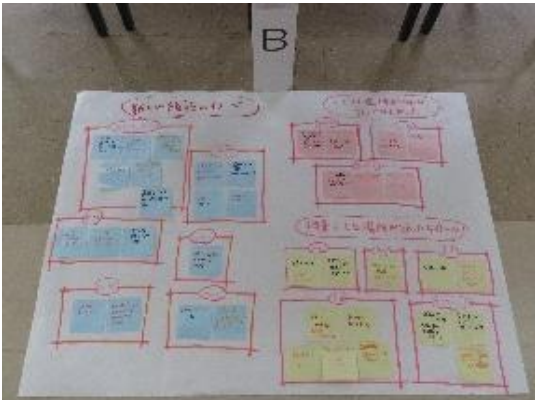
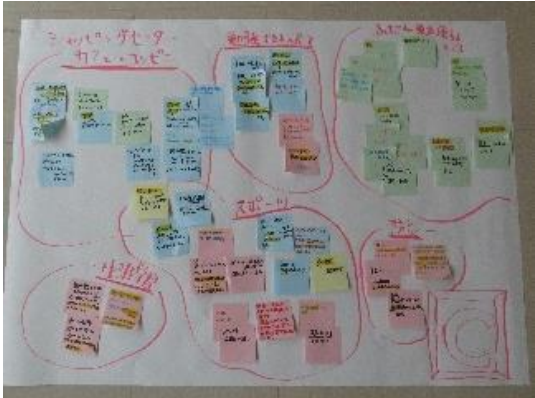
施設	利用の仕方
地域の公民館 図書館	・ 居住地から近い公民館で，図書室では読書や自習，屋内スポーツ施設のある場所では様々なスポーツを楽しんだ

■普段利用する学習スペース

利用シーン	場所
1人で勉強する	・ 基本的に家で勉強することが多い ・ 長期休業中やテスト勉強で，地域の公民館や図書館の自習室，学校の自習室を利用する ・ 学校の自習室は涼しく，長期休業中も空いていて使いやすい ・ テスト前は塾で集中する
友人と勉強する	・ 学校の教室や公民館のロビー，ファミレスは多少声を出しても気にならず，相談しながら勉強できる



イ 新しい拠点施設をイメージして出された意見・アイデア

A 班 スポーツができる 多様な遊び場 	・誰でもいつでも、快適に利用できる屋内スポーツ施設で、部活動以外の様々なスポーツがしたい ・広い公園があると、小さい子どもも大きい子どもも安心して遊ぶことができると思う ・運動後や、友達と交流するときには、自販機や軽飲食ができる場所があると良い ・公共交通機関や自転車でアクセスできると良い
B 班 多様なニーズに 応える施設 	・幅広い世代が利用でき、スポーツや勉強、陶芸、音楽等の体験ができる施設 ・気軽に訪れやすい雰囲気で、目的のない人も寄ってみたくなる施設 ・休日や遅い時間も開館していると、部活終わりや長期休暇中にも利用することができて良い ・子育て支援、防災機能を高めるとともに、多くの情報が集まる場所があると良い
C 班 いろいろなスポーツが 体験でき、 友人と遊べる場所 	・屋内で体を動かすことができ、いろいろな球技（バスケやバドミントン）ができる体育館等の施設があると良い ・屋外バスケットコートがある公園や、小さい子どもが遊ぶための、水遊びができる公園 ・立ち寄りやすく、安価なカフェや飲食店があると、気軽に友人と雑談でき、勉強もしやすい ・地域の人とコミュニケーションをとる機会があると、高齢の方にも若い方にも良い

⑥ 子育てグループヒアリング

- ・子育て世代の視点から、拠点施設に求める役割を把握することを目的として実施しました。

●**実施方法**：町民センターで活動する子育てサークルの方に集まっていただき、ヒアリングを実施

●**実施日**：令和4年8月5日

●**参加者**：町民センターで活動する子育てサークルの方5人

●**結果の概要**：

- ・拠点施設に求めることとして、子どもの遊び場の充実を求める意見と、情報発信に関する意見が多く聞かれました。
- ・一時預かり（託児）については、利用した経験はあるが、予約の取りにくさや金銭的理由で継続していないと回答された方がいました。



現状の町民センターや海田東公民館について

良い点	・東公民館図書室は利用しやすい ・町民センターホールのように屋内で体を動かせることができる場所は貴重 ・施設に保育士がおり、相談を気軽にできる
悪い点	・町民センターの駐車場の少なさ ・飲食できないことが不便 ・幼稚園後の遊び場所がない (幼稚園児が利用できる時間が少ない)

拠点施設に求めること

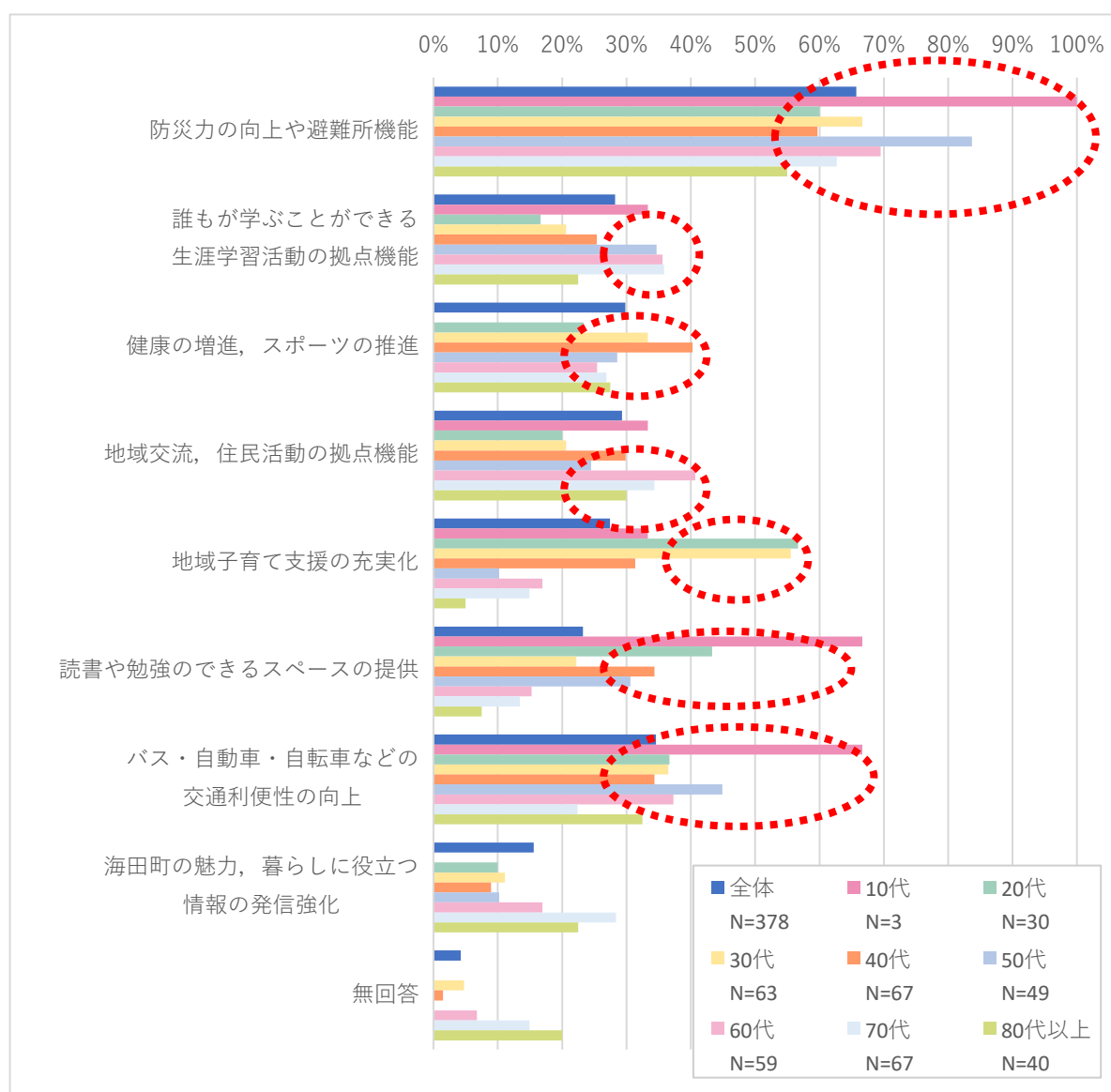
一時預かり	・値段が安く、居住地からの距離が近く、町内の使いやすい場所に点在していると便利
子どもの遊び場	・ボールを使った遊びや、水遊びをする場所が欲しい ・自転車の練習をできるような広い公園 ・小さい子どもが使えるプールがあるとよい ・夏の暑い日や雨の日も遊べる、屋根付きのスペース
図書室	・大人と子どもの本のコーナーが分かれていると、滞在しやすい
情報発信	・デジタルだけでなく、紙媒体の情報発信の方が目に付く ・子育てやイベントに関する情報を中心に知りたい
飲食施設	・値段が安い食堂や、子どもを連れていけるようなカフェ
運営	・幼稚園後も遊べるくらいの、開館時間設定 ・土日祝日も空いている施設

(6) 現状の課題

- ・ 町民アンケートの結果から、ほとんどの年代で、「防災力の向上や避難所機能」を求めている人が多いことが分かります。ほかのアンケートやヒアリングからも、同様の結果が得られました。
- ・ 機能ごとに見ると、30～40代で「地域子育て支援の充実化」、10～20代で「読書や勉強ができるスペースの提供」、50～70代で「誰もが学ぶことができる生涯学習活動の拠点機能」、60～70代で「地域交流、住民活動の拠点機能」と、年代によって求められる機能が異なります。「健康の増進、スポーツの推進」については、30～40代で求める回答が多いことに加え、中高生アンケートや海田東公民館の来館者アンケートについても重要視する回答が多いという結果が得られました。

■参考：アンケート調査の抜粋（町民アンケート）

Q. 新しい海田東地区拠点施設で特に重要と考えられる役割を教えてください。
(あてはまるもの3つまで○印)



- ・ 地区拠点の市街化推移や災害リスクの把握、公共施設の利用状況、町民ニーズの把握を踏まえ、拠点施設における課題を次のように整理します。

① 防災機能の向上

ア 避難所機能の強化

- ・平成 30 年 7 月豪雨の記憶も新しい中、町民アンケートでは世代を問わず防災機能の向上を求める回答が多く集まりました。ほかのアンケートについても、防災に対する関心の高さが伺えました。
- ・海田東公民館は 2 階建て、海田東体育館は 1 階建てであるため、浸水深が大きい瀬野川洪水時には避難所の開設が困難である課題があります。また、エレベーターなどのバリアフリー設備が不足しているため、瀬野川洪水以外の災害に対しても避難所機能の向上が必要です。

イ 防災拠点機能の強化

- ・令和 5 年度に役場新庁舎が開庁すれば、地震や風水害等のリスクに対する役場庁舎の防災拠点機能は強化される見通しです。一方、役場庁舎が一時的に機能停止した場合などの不測の事態に備えて代替庁舎機能の確保が求められます。
- ・町の東部に位置する地区拠点は、津波や高潮、液状化などのリスクが他の地区と比べて相対的に小さいことから、代替庁舎として期待される役割は大きいものと考えられます。

② 老朽化の解消と計画的な施設管理

ア 施設・備品の老朽化の解消

- ・海田東公民館は築 47 年、海田東体育館は築 41 年が経過し、外壁等にひび割れが見られるなど、躯体の経年劣化が進んでいると考えられます。また、階段や手摺に塗装の剥離や錆が生じているなど、老朽化が進んでいます。
- ・備品についても、開館当初から使用しているものも多く、老朽化が著しい状況です。

イ 設備の老朽化や不足の解消

- ・海田東公民館は給排水管などの設備も劣化が進んでいますが、建物の構造上メンテナンスが難しい配管があり、漏水や排水から生じる悪臭が問題になっています。
- ・また、海田東公民館の廊下には空調設備が無く、夏期は熱気がこもりやすい状況です。
- ・海田東体育館についても空調設備が無いため、夏期やコロナ禍において窓を開放し活動する際、活動で生じる音を配慮する必要性が生じています。



海田東公民館屋外階段



海田東体育館外壁

ウ 計画的な施設管理

- ・海田東公民館周辺には多くの公共施設が集積していますが、老朽化や一部機能の重複が見られます。今後約 20 年間で大規模な改修が必要となる施設が多く見込まれ、将来的な財政負担が懸念されます。中長期的な視点から、拠点施設整備と合わせた効果的な機能の再配置や一体的な利用による、施設管理の最適化が求められます。

③ バリアフリー化

- ・海田東公民館は施設開館以降、スロープや手すりの設置など、改修は行われているものの、建物の構造上バリアフリーへ対応できていない部分があります。特に、2 階に上がる手段は階段のみであること、多目的トイレがないことなど、利用者から不便を感じる声が挙げられています。高齢者や障がいのある人、子育て世代など、誰でも安全かつ快適に利用できるような配慮が求められています。



海田東公民館屋内階段



和式トイレ



入口の段差

④ 地域交流・生涯学習・健康増進機能の拡充

- ・海田東公民館の主催事業や、講座などの活動を行う利用団体の利用満足度は高い状況です。一方、町西部や若年世代を中心に海田東公民館・体育館を利用したことのない町民も多く、利用者層に偏りが見られます。より多くの地域や世代の利用を促進することで、世代間交流による地域コミュニティの向上とともに、非常時には普段から使い慣れた施設への避難を促進する効果も期待できます。
- ・中高生からは、気軽に立ち寄れて、友人と自習が可能な学習スペースの要望が挙げられています。世代を問わず、町民の学びを創発する環境を提供することが求められます。
- ・町内では和太鼓や神楽など、音を伴う住民活動も盛んですが、騒音などの問題で活動できるスペースが限られている状況です。中高生ワークショップでは、音楽が練習できる場所が欲しいとの要望も挙げられており、防音性に優れたスタジオなどのニーズも高いと言えます。
- ・現状、体育館の利用頻度は非常に高く、新たな活動の予約が難しい状況です。また、大会議室など広い部屋も軽運動で利用され、健康増進のニーズは高まっていると言えます。中高生アンケートを中心に、幅広い年代から、快適に運動ができる場が求められています。
- ・機能の集積と複合化を図り、拠点性を高めることが期待されます。

⑤ さらなる子育て支援の充実

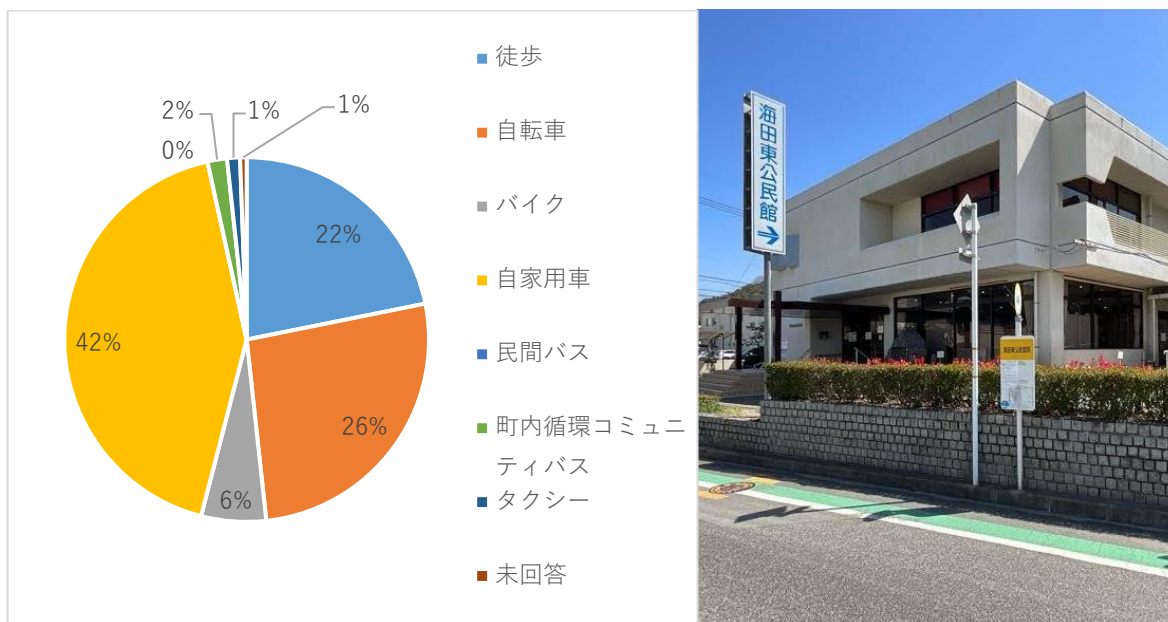
- ・地区拠点では、町民センターが子育て支援センターとして位置づけ付けられ、包括的な子育て支援サービスを提供しています。
- ・子育てグループヒアリングでは、気軽に訪れ、子どもを遊ばせることができる屋内のプレイスペースや、一時預かり（託児）などのサービスに対する要望が挙げられました。町民センターの機能と連携を図り、さらなる子育て支援を充実する機能が求められます。

⑥ 交通利便性の向上

- ・海田東公民館利用者の多くが自家用車を利用しています。町民アンケートでは、町内循環コミュニティバスの利用率は低い状況です。
- ・海田東公民館を利用する高齢者の中には、自家用車を手放した後の交通手段に不安を感じている人がいます。公共交通機関の充実と町東部地域の乗換拠点機能の強化による、交通利便性の向上が課題となっています。
- ・海田東公民館は、町内循環コミュニティバスの北ルート・南ルート双方の利用が可能なバス停がありますが、屋根があり落ち着いてバスを待てるスペースが不足しています。

■参考：アンケート調査の抜粋（町民アンケート）

Q. 海田東公民館までの主な交通手段は何ですか？（いずれか1つに○印）



右：写真 海田東公民館前のふれあいバス乗り場

3 コンセプトと導入機能

(1) 拠点施設のコンセプト

- ・現状の課題を踏まえ、拠点施設には、災害への強靱性を高め、町と地域の活力を持続させる役割や、誰にでも開かれ、安心して利用出来る社会的なインフラとしての役割、現在そして将来の人とコミュニティを育む役割が求められていると考えられます。
- ・また、諸機能を複合化することで連携や兼用を促進し、管理運営の効率化、スペースの効果的な活用や、幅広い世代が集まる効果が期待できます。
- ・そこで、**拠点施設3つのコンセプト**を設定し、地区拠点、町全体での更なる暮らしやすさの実感につなげていきます。

拠点施設3つのコンセプト

- ① 町の持続性を高める防災・減災と環境共生の拠点
- ② 町の活力を育てる町民の活動・健康・交流の拠点
- ③ 町の未来を拓く子育て支援と開かれた学びの拠点

- ・生涯学習・スポーツ推進といった公民館機能に、健康増進、災害時の避難拠点の機能を加え、地区拠点施設を整備します。

(2) 導入機能の方針

- ・拠点施設3つのコンセプトを踏まえた、導入機能の方針を整理します。

① 地域コミュニティ機能

【目指す方向性】

- ・複数の機能を併せ持つ複合施設とすることで、幅広い年齢層の交流を促し、コミュニティの活性化を図ります。
- ・地域の持続性を高めるとともに、人口が増加している町東部地域において、転入者のコミュニティへの参加を促し、若い世代や未利用者の新たな利用につなげ、賑わい創出を図ります。

【実現するための検討案】

- ・施設利用前後のくつろぎの場、交流スペースとして、住民同士が対話を楽しめる憩いの場の提供
- ・飲食を伴う行事など幅広いニーズに対応し、アットホームでリラックスできる場の提供
- ・特定の目的が無くても気軽に訪れたいと感じられるような、キッチンカー等に対応した飲食の場の提供や、イベントの実施
- ・情報発信コーナーの充実



交流スペースのイメージ



住民活動の発信スペースのイメージ
(海田東公民館)



工芸室のイメージ



調理実習室のイメージ



学習スペースのイメージ

② 生涯学習・青少年育成機能

【目指す方向性】

- ・これまで主に海田東公民館で活動してきた住民等の活動環境の向上に加え、新たな活動や学びを創発する場の提供を図ります。
- ・子どもから高齢者までが気軽に訪れ、自らの成長につながる活動拠点を目指します。

【実現するための検討案】

- ・現在活動している方や、幅広い世代のニーズにあった活動の場の提供
- ・調理実習室や陶芸室などの特徴的な機能の確保
- ・様々な学習のニーズに合わせた、自ら学習するスペースの提供
- ・活動団体等の作品や活動の様子を展示するギャラリーの充実
- ・海田東小学校との連携強化により、児童と地域住民との交流の深化及び小学校特別教室との兼用等による効率的運用

③ 子育て支援機能

【目指す方向性】

- ・ 子育て支援センター機能を充実させ、子どもと親が快適に活動、情報交換できる場を提供します。
- ・ 安心して子育てができることにより、子育て世代の暮らしやすさや定住意向につながる施設を目指します。

【実現するための検討案】

- ・ 子育て世代のニーズを踏まえ、心身ともに健康に過ごすことにつながる、遊び場の充実



子どもの遊び場のイメージ



鏡張りの活動スペースのイメージ



半屋外の運動スペースのイメージ

④ 健康増進・スポーツ推進機能

【目指す方向性】

- ・ 地域の幅広い年齢層の方が、身体を動かすことで、リフレッシュや健康増進などができる場を提供します。
- ・ スポーツを通じた世代間の交流により、賑わいの創出、町民の健康維持につなげます。

【実現するための検討案】

- ・ 幅広い世代に向けた健康増進のため、ダンスやヨガ、屋内球技、健康体操など、様々なニーズに対応できる屋内運動スペースの場の提供
- ・ 東広島バイパス高架下の活用・連携による半屋外運動スペースの提供

⑤ 防災・減災機能

●避難所機能

【目指す方向性】

- ・ 土砂災害や洪水リスクに対する安全・安心の確保のため、避難所機能の強化を図ります。
- ・ 平常時に気軽に訪れやすい雰囲気をつくることで、非常時において普段使い慣れた施設へ避難する安心感につなげます。

【実現するための検討案】

- ・ 避難時の動線も考慮した、安心して滞在できる避難スペースの確保（平常時は講座室などに活用）
- ・ 必要な規模を備えた備蓄倉庫の確保
- ・ 幹線道路からの安全なアクセス道路の確保
- ・ プライバシーの確保や、ペット同行避難など、避難を躊躇させない仕組みの整備
- ・ 調理実習室を炊き出しに活用



避難時に安心して滞在できる和室のイメージ



備蓄倉庫のイメージ

●業務継続機能（BCP）

【目指す方向性】

- ・令和5年の役場新庁舎開庁により、災害拠点機能が強化される見込みです。新庁舎の浸水による一時的な孤立化やその他不測の事態に備え、拠点施設は町の災害対策業務を継続できる代替庁舎としての位置付けを目指します。

【実現するための検討案】

- ・災害対策機能や業務継続に必要なスペース及び設備の設置
- ・業務継続に必要なライフラインや備蓄、非常用電源の確保



ペット避難用設備のイメージ



太陽光発電状況の発信イメージ

⑥ 環境共生機能

【目指す方向性】

- ・SDGs*や脱炭素社会推進の視点から、施設の省エネルギー性能の向上や、自然エネルギーの利用を促進するとともに、環境問題への意識啓発を図ります。

【実現するための検討案】

- ・建物の省エネルギー性能の向上、省エネルギー機器や高効率設備の採用
- ・太陽光、太陽熱、雨水などの自然エネルギーの活用や、利用状況の情報発信
- ・自然採光や自然換気、ひさしや格子の設置、地域材活用など施設そのものが環境学習の場となる設え

*SDGs（エスディージーズ）とは、「Sustainable Development Goals」の略で、「持続可能な開発目標」のことです。



地域材活用の照明のイメージ

⑦ 交通拠点機能

【目指す方向性】

- ・町内各所から訪れやすい交通結節点としての機能整備を図ります。

【実現するための検討案】

- ・県道矢野海田線など幹線道路からのアクセスの確保
- ・居心地の良いバス待合環境の充実



緑の外部空間のイメージ

⑧ その他機能

【目指す方向性】

- ・海田東公民館の窓口機能や、施設の管理運営に必要な行政事務機能の確保を検討します。
- ・その他の機能との複合により、更なる拠点性の向上についても引き続き検討します。（+α機能）

【実現するための検討案】

- ・住民票、諸証明書の発行
- ・「+α」機能の検討



屋内のバス待合スペースのイメージ

(3) 拠点施設整備により期待される波及効果

- ・拠点施設整備により次のような効果が生まれることで、一人ひとりの更なる暮らしやすさの実感を高め、町東部地域の市街化の継続や人口の増加を促します。

① 交通利便性の向上と広域的な連携による人流の拡大

- ・拠点施設と連携した東広島バイパス高架下の活用等により、駐車場確保や交通手段の乗換え機能の拡充を図り、交通利便性を高めます。

② 子育て支援の充実による子育て世代の転入促進

- ・子育て支援施設、教育施設、地区の交流の場となる施設としての機能を充実化して、子育てを支援し、子育て世代が暮らしやすいと感じられるような魅力を高めます。

③ 地域コミュニティの拡充と新たなコミュニティの形成促進

- ・海田東公民館の既存機能を元に、町民のニーズを踏まえ改善と強化を図り、更なる利用の充実につなげます。
- ・人口が増加している東部地域において、転入者が地域とつながりを育み、交流や助け合いの可能性を広げられるような、新たなコミュニティ形成を促す拠点を目指します。
- ・健康増進やスポーツ推進は、多様な世代が交流を育むきっかけの一つです。多様な利用者の参加につながるよう、住民活動の発信を促す拠点とします。

④ 中心拠点を補完する暮らしの魅力の向上

- ・地区拠点は生活中心地として、海田総合公園や瀬野川河川敷などの自然資源と、中心拠点より自然が豊かな環境に立地しています。畝観音免古墳群や出崎森神社などの歴史資源を身近に体験できる拠点として、町内外の来訪者への訴求力を高めます。

⑤ 災害想定に対する安全・安心の向上

- ・瀬野川洪水、浸水（内水）、津波、高潮、土砂災害等の災害想定に応じて、避難所機能や業務継続機能等の防災体制を充実させ、町全域の安全・安心の向上につなげます。
- ・新畝橋の整備により、子ども達の日常の通学路や、瀬野川増水時の瀬野川右岸からの避難路の安全性を高めます。

4 候補地の検討

(1) 候補地の抽出

- ・ 拠点施設のコンセプトと導入機能の検討を踏まえ、拠点施設の候補地を抽出しました。

①地区拠点内の公共用地であること

- ・ 地区拠点内は、教育施設や工場、商業施設、住宅が集積し、未利用地が少ない状況です。民有地は用地取得難易度が高く、財政・時間両面の負担が大きいため、候補地は町有地を基本として検討します。

②一定規模以上の敷地面積を有すること

- ・ 一定規模以上の敷地面積が求められます。

③土砂災害及び家屋倒壊等氾濫想定区域を除く地域であること

- ・ 土砂災害は、浸水に比べ甚大な被害を及ぼすリスクが大きいため、ハザードマップで想定されるハザードエリアを除く候補地を選定します。
- ・ 家屋倒壊等氾濫想定区域についても同様の考え方とします。

- ・ 上記により、「A 海田東公民館・体育館（現位置）」「B 海田東小学校プール」「C 海田東小学校（小学校本館改築と併せた複合化）」の3つを抽出しました。

●候補地の地区拠点内位置図



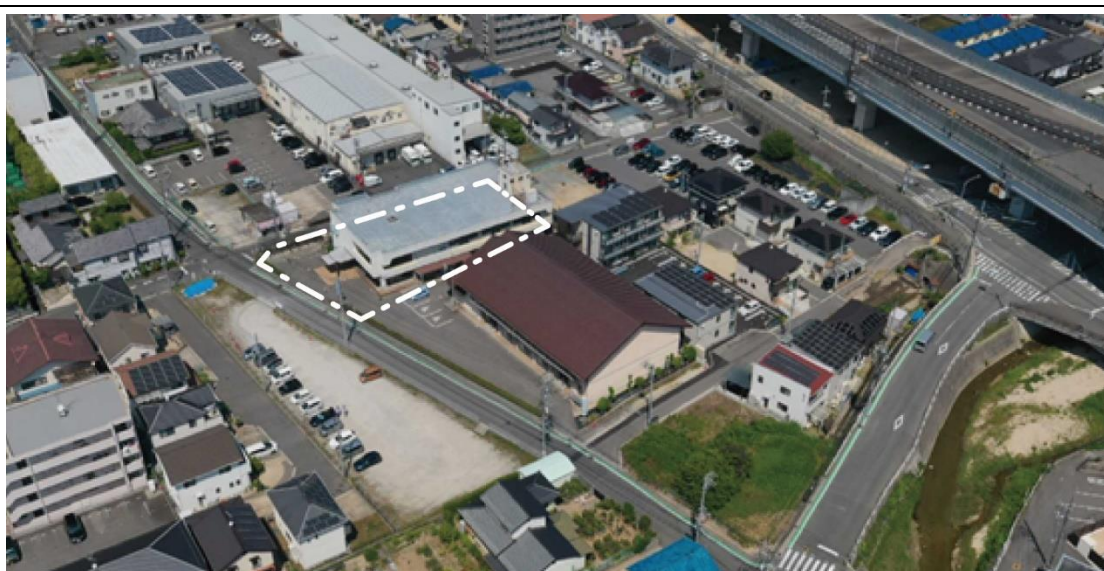
(2) 候補地の条件整理

①各候補地共通事項

- ・ 町民センターは平成4年に竣工した新耐震基準の建物でエレベーターを有しており、町東部地域の子育て支援を行う子育て支援センター機能、海田東児童館及び海田東老人集会所の3つの機能を備えています。また、海田東体育館は平成27（2015）年3月に耐震改修しており、スポーツ推進機能を担っています。いずれの候補地でも共通して、海田東体育館と町民センターの既存機能との連携等を検討する必要があります。
- ・ 海田東公民館敷地には、下水道施設の竹貞雨水第2ポンプ場が都市計画決定されています。周辺地域の浸水リスク低減のためには必要不可欠な施設であるため、ポンプ場や貯留施設の整備を計画的に進める必要があります。

②A 海田東公民館敷地（現位置）

- ・ 海田東公民館敷地は、地区拠点内中央部やや南に位置しています。
- ・ 現在、敷地に整備されている海田東公民館は、平成27（2015）年3月に耐震改修しており、耐震性は満たしています。一方、エレベーターやトイレ等のバリアフリー化や設備の更新が必要で、築40年以上が経過して躯体の老朽化・劣化が進んでいることから、大規模な改修を行っても耐用年数に達するまでの期間は短いと言えます。そのため、候補地を現位置とする場合は、建替えを基本として検討します。また、下水道施設との併設も検討します。
- ・ 海田東公民館敷地は、幹線道路に直接面しておらず、前面道路は浸水リスクが高い状況です。敷地南側の県道矢野海田線からの安全な避難ルートを整備する場合には、民有地の買収が必要と考えられ、用地買収に係る時間的・金銭的負担が生じるものと見込まれます。



A 海田東公民館敷地 北西側俯瞰

敷地面積	約 1,440 m ²	建ぺい率	60%	防火地域等	建築基準法 22 条指定区域
用途地域	第一種住居地域	容積率	200%		

③B 海田東小学校プール敷地

- ・海田東小学校プール敷地は、地区拠点内南部に位置しています。また、町内主要幹線道路である東広島バイパス及び県道矢野海田線に隣接しており、バイパス高架下との連携や、町内外からのアクセスに利便性の高い立地です。
- ・現在、敷地は海田東小学校プール及び町民センター駐車場として利用されています。海田東小学校プールは平成 25（2013）年度に改修し、改修後の経年が 9 年となっていますが、既存プールを残したままでの上空利用は著しく不合理な建築計画となることから、候補地を海田東小学校プール敷地とする場合は、授業は継続可能な体制を確保することを前提として、既存建物の解体を基本として検討します。授業継続の具体的な方法については、海田南小学校で取り組んでいる外部連携の試行結果も踏まえて検討します。
- ・海田東小学校プール敷地は町民センター敷地に隣接しており、特に機能の連携や一体的な活用が行いやすい立地で、県道矢野海田線からのアクセスルートが確保しやすい立地です。



B 海田東小学校プール敷地 西側俯瞰

敷地面積	約 1,950 m ²	建ぺい率	80%	防火地域等	建築基準法 22 条指定区域
用途地域	近隣商業地域	容積率	300%		

④C 海田東小学校敷地

- ・海田東小学校敷地は、地区拠点内南西部に位置しています。
- ・現在、敷地は海田東小学校として利用されています。海田東小学校の本館は築 50 年以上が経過し、令和 4 年 12 月末に結果が出た老朽化詳細調査により、改修より建替えが効率的と判断されたため、候補地を海田東小学校敷地とする場合は拠点施設の諸機能を複合化して建替えを行うこととします。複合化により、特別教室の一部を拠点施設と共用することによる利用率の向上や整備費用の縮減等が期待できる一方、検討期間や整備期間が学校利用の継続を前提としたスケジュールとなるため、拠点施設整備が長期化するリスクが考えられます。
- ・海田東小学校敷地は町民センター敷地に道路を挟んで対面しており、機能の連携や一体的な活用が行いやすい立地で、県道矢野海田線からのアクセスルート確保が考えられます。



C 海田東小学校敷地 南側俯瞰

敷地面積	約 12,730 m ²	建ぺい率	60%	防火地域等	建築基準法 22 条指定区域
用途地域	第一種住居地域	容積率	200%		

ア 学校施設複合化の効果

(ア) 学習環境の高機能化・多機能化

- ・複合化により、単独の学校として整備するよりも施設機能の高機能化・多機能化を図ることができ、児童生徒や地域住民に多様な学習環境を創出するとともに、公共施設を有効的に活用します。

(イ) 児童生徒と施設利用者との交流

- ・学校施設と他の公共施設等が併設されている特徴を生かし、交流の機会を設け、日常的に互いの施設での活動等を目にすることで、児童生徒と地域住民などの施設利用者との交流を深めます。

(ウ) 地域における生涯学習やコミュニティの拠点の形成

- ・学校施設と社会教育施設等の複合施設は、児童生徒の学びの場としてだけでなく、地域住民の生涯学習の場となり、伝統文化や行事の継承などを通して、地域コミュニティの形成に寄与します。

(エ) 専門性のある人材や地域住民との連携による学校運営への支援

- ・様々な人材が集まるという特徴を生かし、学校の教育活動や課外活動に専門性のある人材を活用し、地域住民の協力を促すことで、児童生徒がより高度な専門知識に触れる機会を創出し、学校運営への支援が期待されます。

(オ) 効果的・効率的な施設整備

- ・施設の共同利用等により、施設整備や運営に係る費用の縮減が期待でき、施設の有効利用（利用率の向上）を図ります。
- ・将来の児童生徒数の変動などの利用需要の変化に対応し、施設を有効的に活用します。

(カ) 有利な財源の活用

- ・国は、将来の人口減少や依然として厳しい地方自治体の財政状況等を見据え、施設の複合化・集約化に対する補助制度、地方債制度を創設しており、全国的に学校施設も含めた複合化が増加傾向にあります。

イ 複合化の課題

(ア) 自治体内の部局間の連携

- ・複数の部局が連携し、各施設の計画、管理運営方法等の検討が必要です。

(イ) 教職員や地域との合意形成

- ・整備計画の段階から、地域住民と共に意見を出し合い合意形成を図るプロセスの構築が重要です。

(ウ) 安全性の確保（事故防止、防犯機能の確保、防災機能の確保）

- ・不特定多数の人が施設を利用することから、児童生徒が安心して学校生活を送り、地域住民も安心して利用できるよう、ハード・ソフト両面の対応策の検討が必要です。

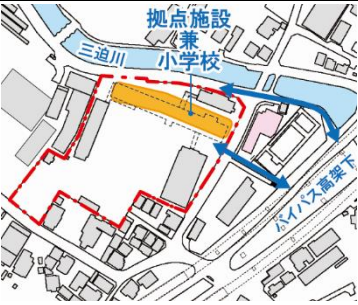
(エ) 互いの施設の活動への支障の緩和

- ・児童生徒と施設利用者との動線交錯や互いの音などにより、学校活動や他の施設の活動が互いに支障を及ぼさないよう配慮が必要です。

(オ) 施設の利用条件や施設管理の役割分担等の明確化

- ・各施設間の相互利用・共同利用に応じた専用部分や共同利用部分の管理区分や、利用条件について検討が必要です。

(3) 候補地の比較

	A 海田東公民館敷地 (現位置)	B 海田東小学校プール敷地	C 海田東小学校敷地 (小学校本館改築と併せた 複合化)
敷地規模	◎ 敷地面積：約 1,440 m ²	○ 敷地面積：約 1,950 m ²	○ 敷地面積：約 12,730 m ² (小学校含む)
災害安全性	△ 瀬野川洪水：3.7m (浸水継続 12～24 時間) 浸水(内水)：1～3m 津波：— 高潮：3.3m 土砂災害：—	◎ 瀬野川洪水：1.6m (浸水継続 0～12 時間) 浸水(内水)：— 津波：— 高潮：1.7m 土砂災害：—	○ 瀬野川洪水：1.9m (浸水継続 0～12 時間) 浸水(内水)：1m 未満 津波：— 高潮：4.5m 土砂災害：—
避難容易性	△ 浸水深が高く、避難安全確保 と浸水時の孤立化防止が必要	◎ 県道矢野海田線からフラット に避難可能	○ アクセスデッキを整備すれば 県道矢野海田線からフラット に避難可能
周辺施設 との連携 ・拡張性	△	○ 町民センター・東小学校・ バイパス高架下・交番に隣接	○ 東小学校と複合 町民センター・バイパス高架 下・交番に近接
利用の 継続性	△ 現位置建替えのため 1～2 年 利用が中断	○ 拠点施設整備後に移転可能	○ 拠点施設整備後に移転可能
用地利用の 自由度	○ 町有地＋一部民有地(アクセ スデッキ)	△ 町有地であるが、既存プールの 解体を伴う	○ 町有地＋一部道路上空利用
施設配置の 適合性			
事業コスト	× 1.00	△ 0.95	◎ 0.82
事業期間	△ 海田東公民館解体期間が必要 民有地の取得時期が不透明	○ プール解体期間が必要	△ 学校改築スケジュールと連 動する必要がある

- ・地区拠点施設については、生活利便性の向上を図るとともに、更なる人口増加につな
がる取組として早期の実施が望ましいこと、また令和 4 年 12 月末に海田小学校本館及
び海田東小学校本館老朽化詳細調査において、両校とも経年劣化が著しく、改築が効
率的という結果が得られたことから、効果的・効率的な施設整備とするため、3 つの候
補地それぞれについて検討を進め、基本計画において選定をするものとします。

(4) 施設規模の想定

① 拠点施設の規模

ア 織田幹雄スクエアと同等の場合

「コンセプトと導入機能」において整理した7つの機能の導入を想定した場合、現状の施設規模や、町西部地域において先行して整備された織田幹雄スクエアの施設規模を参考に、 $3,000 \text{ m}^2 + \alpha$ を施設規模の想定とします。

$$3,000 \text{ m}^2 + \alpha$$

(α = 今後の検討により追加される機能等の面積)

イ 海田東公民館と同等の場合

海田東小学校改築と同時に実施を想定し、効果的・効率的な施設整備を目指すため、地区拠点施設への導入を検討している機能について、周辺公共施設と共用化を図ることや、一部機能を既存施設等へ移すこととした場合、海田東公民館の施設規模を基に、 $1,200 \text{ m}^2 + \alpha$ を施設規模の想定とします。

$$1,200 \text{ m}^2 + \alpha$$

(α = 今後の検討により追加される機能等の面積)

- ・ いずれの想定においても、近接する海田東小学校、町民センター及び海田東体育館との連携や東広島バイパス高架下敷地の活用により取り組むこととし、必要に応じて既存施設の複合化や改修を行います。
- ・ 導入機能及びその他機能ごとの面積配分や施設間の相乗効果を高めるための歩行空間ネットワークについては、基本計画で検討するものとします。

● 拠点施設の整備イメージ



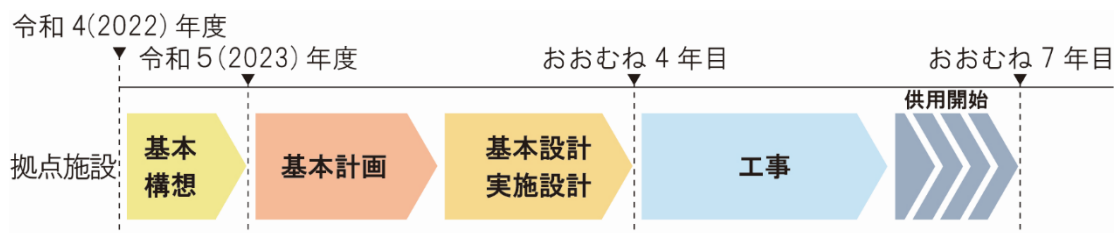
② 駐車場・駐輪場の規模

- ・現状、海田東公民館には約 40 台、町民センターには約 20 台の駐車場がありますが、最も利用者が集中する時間帯やイベント時には駐車場が不足しています。
- ・交通拠点機能を含む複数の機能が複合される拠点施設では、現状より多くの駐車場を確保する必要があると想定され、具体的な台数については基本計画で検討するものとします。
- ・駐車場は、敷地内に限らず、周辺公共施設との共用や東広島バイパス高架下など近隣での確保も含め、総合的に検討を行います。

5 事業計画

(1) 事業スケジュールの想定

- ・現段階で想定されるスケジュールは、次のとおりです。



- ・事業スケジュールについては、施設機能や施設規模の具体化、事業手法の選定等と合わせて、引き続き検討を深めます。

(2) 事業費用の想定と財源

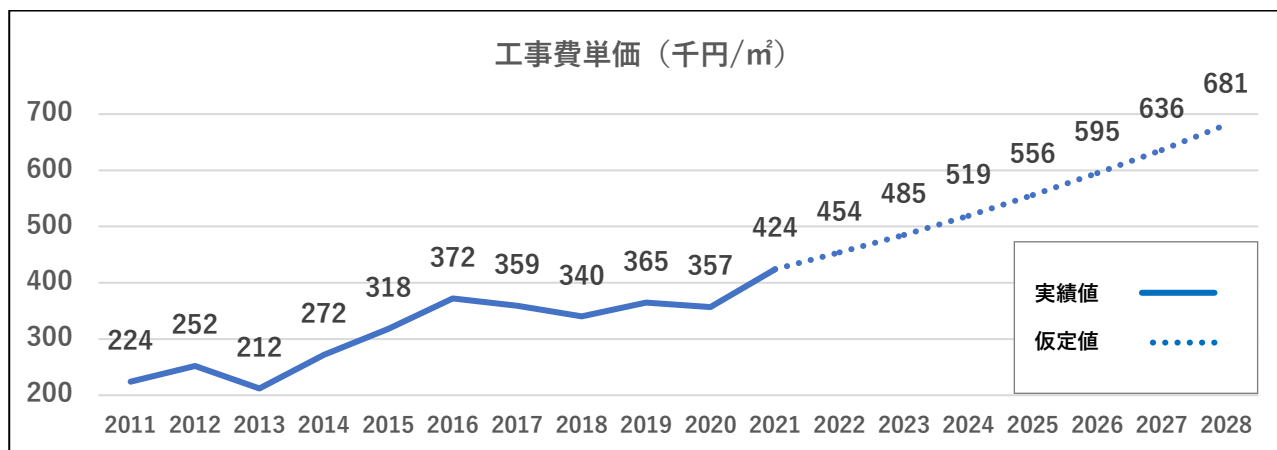
① 建築工事費単価と変動リスクの想定

- ・建築着工統計調査に基づき、基本構想における現時点の建築工事費単価を424千円/㎡(税別)と設定します。

● 建築着工統計調査(国土交通省)

年度	床面積の合計(㎡)	全国の教育、学習支援業用建築物の工事費の合計(万円)	工事費単価(千円/㎡)	前年度からの上昇率	備考
2011年度	492,209	11,031,643	224	—	東日本大震災後
2012年度	432,857	10,890,211	252	1.13	
2013年度	433,626	9,211,512	212	0.84	
2014年度	386,606	10,522,694	272	1.28	
2015年度	434,501	13,822,712	318	1.17	
2016年度	221,454	8,255,862	372	1.17	
2017年度	171,760	6,169,821	359	0.97	
2018年度	176,348	6,002,017	340	0.95	
2019年度	160,397	5,847,287	365	1.07	
2020年度	215,631	7,689,800	357	0.98	
2021年度	209,829	8,894,720	424	1.19	

- ・また、建築工事費単価は昨今の建築コストの著しい上昇傾向を踏まえ、今後さらに変動する可能性が考えられます。このため、変動リスクを想定した拠点施設の建築工事費単価を設定します。
- ・建築着工統計調査に基づき算定した工事費単価の2011年度から2021年度までの年平均上昇率が107%であることから、工事費単価が毎年7%ずつ上昇し続けると仮定した建築工事費単価を上振れ値として設定します。



② 概算事業費

- ・基本構想における概算事業費は、先に算出した拠点施設の施設規模を前提に変動リスクを想定します。今後、「 $+\alpha$ 」等の施設機能の具体化や事業手法の選定、ライフサイクルコストの観点なども含め、検討を進めます。

●3,000 ㎡の場合

項目	金額(千円) 【税別】	内訳
拠点施設 建築工事費	1,522,000 ～2,147,000 $+\alpha$	・ 本体@424～600 千円/㎡$\times$(3,000 ㎡$+\alpha$) ・ 液状化対策@26～34 千円/㎡^{*1}$\times$2,000 ㎡ ・ 外構・高架下@22～31 千円/㎡^{*1}$\times$(2,000 ㎡+7,000 ㎡)
既存施設 解体工事費等	101,000 ～140,000	・ 東公民館・東体育館等@46～64 千円/㎡^{*1}$\times$1,800 ㎡ ・ 東小学校プール 18,000～25,000 千円^{*2}
その他経費等	382,000 ～532,000 $+\alpha$	・ 設計監理費，備品購入費，移転費その他 ・ 「$+\alpha$」機能の導入により付帯的に必要となる経費等
合計	2,005,000 ～2,819,000 $+\alpha$	

- ・ 拠点施設の着工が想定される 2026 年度までの工事費単価が毎年 7% ずつ上昇し続けるものと仮定した結果（595 千円/㎡）により，変動リスクを想定した建築工事費単価の上振れ値を 600 千円/㎡（税別）とします。

合計： 約 20～28 億円 $+\alpha$ 【税別】

●1,200 m²の場合

	項目	金額(千円) 【税別】	内訳
拠点施設部分	建築工事費	670,000 ～1,013,000 + α	・ 本体@424～640 千円/m ² × (1,200 m ² + α) ・ 高架下@23～35 千円/m ² × 7,000 m ² ・ 「+ α 」機能
	既存施設 解体工事費等	59,000 ～83,000	・ 海田東公民館@49～69 千円/m ² × 1,200 m ²
	その他経費等	223,000 ～326,000 + α	・ 地盤調査費, 設計監理費, 備品購入費, 移転費 その他 ・ 「+ α 」機能の導入により付帯的に必要となる 経費等
	計	952,000 ～1,422,000 + α	

・ 1,200 m²として整備する場合は複合施設を想定しており、単独で整備する場合に比べて着工までに期間を要する見込みであることから、拠点施設の着工が想定される 2027 年度までの工事費単価が毎年 7% ずつ上昇し続けるものと仮定した結果 (636 千円/m²) により、変動リスクを想定した建築工事費単価の上振れ値を 640 千円/m² (税別) とします。

合計： 約 10～14 億円 + α 【税別】

【参考】建築工事費の想定 (※ 高架下整備及び解体工事を除く)

単独整備の場合（地区拠点施設:2,400 m ² (織田幹雄スクエア規模からホールを除く))				複合施設の場合（地区拠点施設:1,200 m ² (東公民館規模))			
補助金 5.9 億円 (1/2)	地方債 8.2 億円		一般財源 1.6 億円	補助金 2.9 億円 (1/2)	地方債 4.0 億円		一般財源 0.8 億円
	交付税 1.2 億円 (22.2%)	自主財源 7.0 億円			交付税 1.3 億円 (50%)	自主財源 2.7 億円	
建築工事費：15.7 億円 実質負担：8.6 億円				建築工事費：7.7 億円 実質負担：3.5 億円			
建築工事費▲8 億円の減				町の実質負担 5.1 億円の節減効果)			

③ 財源

- ・本事業の財源については、国等の交付金等や起債等の最も有利な組合せを検討し、本町の財政負担の軽減を図るものとします。現時点で想定される、本事業に活用できる可能性のある交付金及び起債については次のとおりです。

ア 施設の集約化や複合化が条件となる財源

交付金	事業名	補助率	備考
社会資本総合 交付金	都市構造再編 集中支援事業	50%	都市機能誘導区域内等 立地適正化計画に基づき、都市機能や 居住環境の向上に資する公共公益施設 の誘導・整備、防災力強化、居住の誘 導の取組等の持続可能で強靱な都市構 造へ再編を図ることを目的とする事業 【交付対象】 ・地域交流センター など

起債名	事業名	充当率	交付税 措置率	備考
公共施設等適正 管理推進事業債	集約化	90%	50%	複合化や集約化することで建築物の延 床面積が減少するもの 国庫補助事業として実施される事業も 対象となる
	立地適正 化事業		30%	上記の都市構造再編集中支援事業の国 庫補助事業を補完する事業又は国庫補 助事業と一体的に実施される事業

イ 施設の集約化や複合化が条件とならない財源

起債名	充当率	交付税 措置率	備考
緊急防災・減災事業債	100%	70%	大規模災害時の防災・減災対策のため に必要な施設の整備に係る部分のみ充 当可能
公共事業等債	90%	22.2%	国が事業費の一部を補助、負担する事 業のうち地方公共団体が負担する部 分が起債対象
一般単独事業債	75%	0%	補助金等が充当できない部分に財源と して充当

(3) 基本計画に向けて

- ・基本計画では、基本構想の施設整備コンセプトに基づいて、町民の意向を踏まえながら、より具体的な検討を進めていきます。
- ・拠点施設の単体の検討に留まるのではなく、周辺地域及び公共施設との連携や方針の共有を図りながら、海田町全体のまちづくりに寄与する施設を目指します。

■ 参考：基本計画で具体的な検討を進める主な項目

分類	検討項目
敷地条件や町民意向の把握	・敷地測量 ・ワークショップ等による町民意向の把握と発信
施設計画の検討	・施設整備方針の整理 ・「$+ \alpha$」機能を含む導入機能と必要諸室の具体化 ・施設規模と駐車場・駐輪場の必要台数の設定
事業計画の検討	・事業手法の検討 ・事業スケジュールの検討 ・事業費及び維持管理コストの試算

海田東地区拠点施設整備基本構想

令和5年4月

発行：海田町

住 所	〒736-8601 広島県安芸郡海田町上市 14 番 18 号
電 話	(082) 823-9212 (企画部企画課)
F A X	(082) 823-9203
U R L	https://www.town.kaita.lg.jp/